

一般財団法人 黎明郷

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

Hirosaki Stroke and Rehabilitation Center

年報

第6号

2018.4~2019.3



一般財団法人 黎明郷 理念

質の高い医療・リハビリテーションを実践し、
地域社会の保健医療福祉に貢献します。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 基本方針

- ◆地域に開かれた病院として脳卒中医療に貢献します。
- ◆活発な地域連携（病病連携・病診連携）を展開します。
- ◆最新かつ最適な医療とリハビリテーションを提供します。
- ◆チーム医療により自立への支援に努めます。
- ◆安全に配慮し、快適な入院環境作りを目指します。
- ◆最新の脳卒中医療情報を発信します。

目 次

巻頭言	院長 鎌田 孝篤	1
施設概要・沿革		2
機構図		3
役員名簿（理事・監事）		4
評議員名簿		5
職員数		6
診療実績（入院患者数等、検査件数）		7
脳ドック・訪問リハビリ実績		9
研修認定施設		10
専門医数		11
治験実績		12
実習受入状況		13
財団事業		14
青森県高次脳機能障害支援拠点機関		14
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会		15
脳卒中市民公開講座		16
黎明郷リハビリテーションケア勉強会		17
学術報告		18
学会発表		18
講演活動 等		21
論文発表 等		23
委員会報告		24
医療安全管理委員会		24
医療器材管理委員会		27
感染対策委員会		29
栄養管理委員会		32
褥瘡対策委員会		35
臨床検査適正化検討委員会		37
薬事審議委員会		39
診療記録管理委員会		41
電子保存システム管理委員会		44
DPCコーディング委員会		46
倫理委員会		47
衛生委員会		49
部署代表者委員会		52
教育研修委員会		54
施設運用委員会		56
広報委員会		58
患者サービス委員会		59
レクリエーション委員会		61
NST		63
ICT		65
DST		71
脳ドック ワーキンググループ		73
心臓リハビリテーション ワーキンググループ		74
口腔ケア ワーキンググループ		76
編集委員		78

巻 頭 言

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
院長 鎌田 孝 篤

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター年報第6号（平成30年度）が予定より遅れましたが、発刊の運びとなりました。

平成30年度は、黎明郷の大池弥三郎初代理事長が発起人となって設立された青森県成人・老人リハビリテーション施設協会の講演会が、平成30年10月13日に開催されました。テーマは当センターでも新たに始まった『心臓リハビリテーションについて』でした。県内の各病院から招かれたパネリストによるパネルディスカッションに続き、東北医科薬科大学の伊藤修教授から、心臓リハビリテーションの最近の動向について特別講演を頂きました。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターとしてスタートして8年目の平成30年度ですが、前年度から努めていた、救急紹介患者を断らず、脳卒中類縁疾患も広く受け入れ、回復期リハ病棟の退院調整を積極的に行なうことなどを継続し、稼働率は一般病棟、回復期病棟ともに年間を通じ比較的堅調に経過し、病院全体の病棟稼働率は93.6%となっています。平成30年度は診療報酬改訂により一般病棟および回復期リハ病棟の入院料細分化などありました。病院運営においては、今後も厳しい状況が続くことが予想されます。緊張感を持って先手先手の対応に心がける所存です。

検査・手術件数では頸動脈ステント留置術、経皮的脳血栓回収術は年間を通じてコンスタントに行なわれ大幅な増加となっています。他の検査件数も患者数の増加に伴い前年に比し全般的に増加しており、脳ドック受診者数、訪問リハビリ件数も増加となっています。また青森県から委託されている高次脳機能障害の支援拠点機関としての関連事業や市民公開講座、黎明郷リハビリテーションケア勉強会開催などの社会活動も継続されております。

年報に記載されている事項、特に数値は現在のセンターの診療や情報発信の現状を示す指標であり、問題点の分析と改善に向けての貴重な資料となるものであります。今後に向けて、十分に吟味し活用されることを願っております。

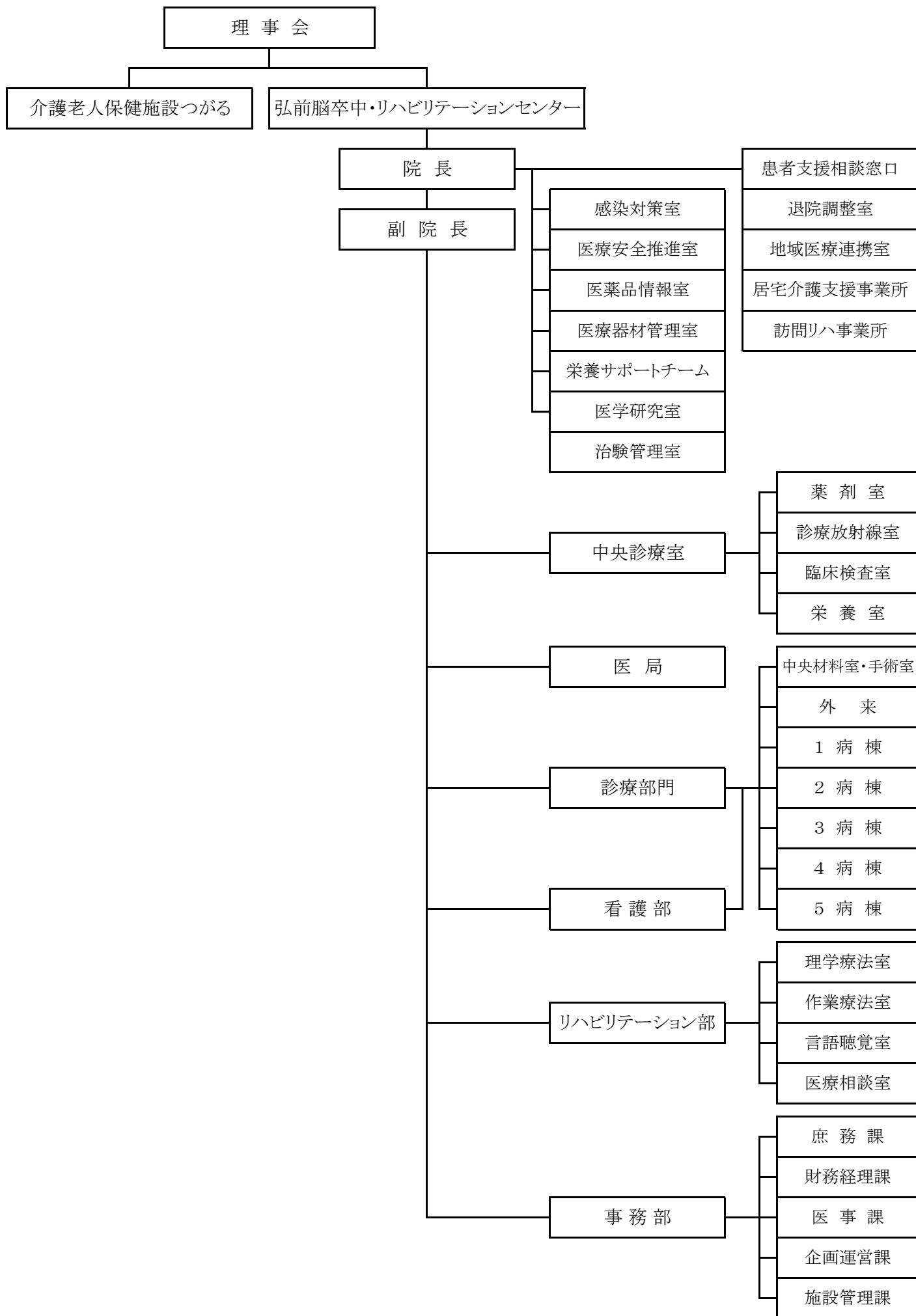
年報を担当した広報委員会の目時典文委員長をはじめ、各委員諸氏の労に敬意を表したいと存じます。

施設概要

年 月	内 容
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 敷地面積 19,872.80 m ² 建築延面積 11,414.94 m ² 一般病棟 35床 回復期リハビリテーション病棟 110床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科
平成23年 4月	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター開設（名称変更）（248床） 構造/鉄筋コンクリート造り地上4階 敷地面積 25,828.95 m ² 建築延面積 18,579.55 m ² 一般病棟 79床 回復期リハビリテーション病棟 169床 内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、整形外科、歯科
平成25年 4月	診療科目変更 脳・血管内科、循環器内科、内科、脳神経外科、リハビリテーション科、神経内科、放射線科、歯科

沿 革

年 月	内 容
昭和41年 4月	青森県知事より財団法人黎明郷の設立認可
昭和41年 7月	碓ヶ関村より診療所の委託を受け診療を開始（10床）
昭和42年 4月	黎明郷リハビリテーション病院開設（60床、昭和57年7月248床）
昭和60年 9月	黎明郷リハビリテーション病院に高血圧センター併設
平成15年 4月	黎明郷リハビリテーション病院に介護老人保健施設つがるを併設
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設（145床）内科・神経内科・脳神経外科・リハビリテーション科・整形外科
平成17年 7月	弘前脳卒中センター開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院（103床）となる
平成23年 4月	弘前脳卒中センターと黎明郷リハビリテーションを統合し、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターを開設（248床） 開設に伴い黎明郷リハビリテーション病院は廃止 碓ヶ関診療所（無床）を開設
平成24年 3月	碓ヶ関診療所廃止
平成25年 4月	一般財団法人へ移行



役員名簿

平成31年3月31日現在

氏名	所属・職名等
保嶋 実 (理事)	一般財団法人 黎明郷 理事長
奥村 謙 (理事)	済生会熊本病院心臓血管センター 循環器内科 最高技術顧問
富田 泰史 (理事)	弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座 教授
高梨 信吾 (理事)	弘前大学保健管理センター 所長・教授
長内 智宏 (理事)	弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域 教授
玉田 友一 (理事)	玉田内科医院 院長
長尾 忠行 (理事)	平川市長
山田 年伸 (理事)	大鱈町長
石川 啓太郎 (理事)	(株)青森銀行 取締役弘前地区統括
三浦 康久 (理事)	元弘前大学理事・副学長
佐藤 陽子 (理事)	元青森県環境生活部長
小林 正志 (理事)	一般財団法人 黎明郷 事務局長
鳴海 溜喜子 (監事)	元黒石税務署長
白鳥 元生 (監事)	(株)青森銀行 弘前支店長

評議員名簿

平成31年3月31日現在

氏 名	所属・職名 等
吉岡 利忠	弘前学院大学 学長
込山 稔	社会福祉法人 藤聖母園 理事
梅村 芳文	梅村医院 院長
畑山 亨	畑山医院 院長
葛西 聡	あすなる法律事務所 弁護士
奈良岡 勇造	元青森県生活環境部 理事
柳田 光祥	豊田地区町会連合会 会長
横山 篤	介護老人保健施設つがる 施設長
岩田 学	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 院長
松本 茂男	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長
鎌田 孝篤	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長
樋口 三枝子	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター・介護老人保健施設つがる 看護部長

職員数

※過去3か年分について掲載

職 種	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
医 師	14	17	18
薬剤師	8	8	9
診療放射線技師	6	6	6
臨床検査技師	7	7	8
理学療法士	59	59	58
作業療法士	57	58	56
言語聴覚士	9	10	7
医療相談員	10	9	11
医療部助手	1	1	1
管理栄養士	4	4	4
看護師	164	169	159
准看護師	16	15	19
看護助手	35	43	38
歯科衛生士	2	2	2
介護支援専門員	2	2	2
事務員	40	40	41
合 計	434	450	439

各年4月1日現在

診療実績 入院患者数

※過去3年分について掲載

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
延患者数（人）		74,153	81,464	84,743
病床数		248	248	248
病床稼働率（％）		81.9	90.0	93.6
平均在院日数（日）	一般病棟	16.7	17.8	17.5
	回復期病棟	81.9	88.4	88.0
新患受入件数（件）	a. 救急車	645 (31.1%)	648 (30%)	615 (28%)
	b. 直接来院	1,428 (68.9%)	1,512 (70%)	1,584 (72%)
※ c. 救急車受入のうち入院（件） (c/a)		500 (77.5%)	518 (79.9%)	489 (79.5%)
一般病棟指標				
在宅復帰率		81.0%	82.9%	87.2%
医療・看護必要度 重症者割合		28.0%	30.0%	40.2%
回復期リハビリテーション病棟指標				
在宅復帰率		78.7%	80.2%	83.8%
新規入棟患者重症者割合〔A項目〕		22.5%	24.4%	— (※)
新規入棟患者重症者割合〔B項目〕		45.7%	54.9%	52.6%
重症患者回復割合（退棟時）		45.9%	49.8%	51.2%
回復期病棟延患者数（人）		51,666	56,880	59,498
実施リハ単位数		340,269	358,340	34,123
一日一人当たりリハ提供単位数		6.59	6.30	5.74
脳卒中地域連携パス適用患者数（平成25年9月～）		0	0	0

(※)平成30年4月～廃止

診療実績 検査・手術件数

※過去3年分について掲載

		平成28年度	平成29年度	平成30年度
MR I		4,344	4,449	4,700
C T		3,895	3,911	4,365
超音波	頰動脈	1,220	1,263	1,373
	心臓	898	988	1,116
	経食道心臓	447	487	533
	その他	5	36	54
	合計	2,570	2,774	3,076
A B I (脈波)		835	882	866
ホルター心電図		905	918	916
血管造影	脳血管造影	38	62	59
	頭頸部血管造影	1	—	—
	大動脈造影	1	—	—
	心臓カテーテル検査	15	16	10
	下肢血管造影	1	3	2
	合計	56	81	71
透視下検査	嚥下造影	47	67	41
	上部消化管造影	—	—	—
	透視のみ	6	1	4
	合計	53	68	45
内視鏡	内視鏡下胃瘻造設術	—	—	—
	胃瘻交換	27	15	13
	胃・十二指腸ファイバースコピー	10	19	4
	食道ファイバースコピー	—	1	0
	合計	37	35	17
血栓溶解療法 (t-P A)		29	27	25
頰動脈ステント留置術		7	6	12
経皮的脳血管形成術		1	3	1
経皮的脳血栓回収術		1	1	11
ペースメーカー移植・交換術		—	4	4
気管切開術		1	2	3

脳ドック実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成28年度	1	4	12	17	15	11	9	10	3	7	8	3	100
平成29年度	4	0	11	14	15	10	13	17	12	10	1	1	108
平成30年度	4	3	6	12	16	14	11	19	18	6	5	4	118

※過去3年分について掲載

訪問リハビリ実績

単位:件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成28年度	186	184	219	205	216	212	181	183	178	181	169	196	2310
平成29年度	183	193	215	199	220	197	222	208	187	189	198	225	2436
平成30年度	220	226	217	216	217	181	214	207	198	196	199	221	2512

※過去3年分について掲載

研修認定施設

	認 定 学 会	認 定 期 間
1	日本脳卒中学会認定研修教育病院	2013. 4. 1～2014. 12. 31 2015. 1. 1～2016. 12. 31 2017. 1. 1～2019. 12. 31
2	日本リハビリテーション医学会認定研修施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2022. 3. 31
3	日本静脈経腸栄養学会N S T稼働認定施設	2014. 4. 1～2019. 3. 31 2019. 4. 1～2024. 3. 31
4	日本高血圧学会専門医認定施設	2012. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2022. 3. 31
5	日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設	2013. 4. 1～2015. 3. 31 2015. 4. 1～2017. 3. 31 2017. 4. 1～2019. 3. 31 2019. 4. 1～2021. 3. 31

専門医数

単位：人

資 格	計
日本高血圧学会認定専門医	1
日本循環器学会認定循環器専門医	5
日本腎臓学会腎臓専門医	1
日本内科学会総合内科専門医	5
日本臨床検査医学会臨床検査専門医	1
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医	7
日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医	2
日本脳神経血管内治療学会認定専門医	1
日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医	2
合 計	25

平成31年3月31日現在

※合計は延べ人数

治験実績

年度	内 容
平成 30 年度	DU-176b 第Ⅲ相臨床試験（非弁膜症性心房細動） 既存の経口抗凝固薬の投与が困難な 80 歳以上の非弁膜症性心房細動患者を対象とした多施設共同無作為化プラセボ対照二重盲検比較試験
平成 30 年度	脳梗塞再発リスク因子を有する血栓性脳梗塞患者を対象とした CS-747S のクロピドグレル硫酸塩との二重盲検比較試験

実習受入状況

※過去3か年分について掲載

平成 28 年度	医局	看護部	リハビリテーション部				栄養室	事務	全体
			P T	O T	S T	M S W			
延件数 (単位：件)	4	17	20	13	6	2	0	0	62
延人数 (単位：人)	114	974	439	500	181	52	0	0	2260

平成 29 年度	医局	看護部	リハビリテーション部				栄養室	事務	全体
			P T	O T	S T	M S W			
延件数 (単位：件)	4	15	13	12	4	1	1	1	51
延人数 (単位：人)	122	905	457	537	197	23	12	36	2289

平成 30 年度	医局	看護部	リハビリテーション部				栄養室	事務	全体
			P T	O T	S T	M S W			
延件数 (単位：件)	5	22	17	21	6	1	1	1	74
延人数 (単位：人)	171	974	450	472	206	24	12	4	2313

財団事業(青森県委託事業)
 青森県高次脳機能障害支援拠点機関
 平成30年度事業活動報告

1. 青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会

開催日時：平成30年9月8日(土) 13:30～16:00

開催場所：青森県観光物産館アスパム 5階あすなろ

参加者：161名

講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

院長 岩田 学 先生

『高次脳機能障害との上手な付き合い方 ～子どもから高齢者まで～』

講師：高次脳機能障害専門クリニック はしもとクリニック 経堂

院長 橋本 圭司 先生

※拠点機関支援コーディネーターによる医療福祉相談を同時開催

2. 青森県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業検討委員会

開催日時：平成30年7月17日(火) 17:30

開催場所：青森国際ホテル 2階 高砂の間

出席者：14名

案件

1. 平成29年度事業報告について
2. 平成30年度事業計画について

3. 相談件数

相談件数	相談者		
	本人	家族	その他
	11	35	58
就労支援	1	3	2
診断・治療	8	22	51
支援体制・家族会	2	6	3
その他	0	4	2

財団事業(事務局)
青森県成人・老人リハビリテーション施設協会
平成30年度事業活動報告

青森県成人・老人リハビリテーション施設協会研修会

開催日時：平成30年10月13日(金) 14:30～17:00

開催場所：青森県医師会館

参加者：病院、老健、特養等職員 73名

テーマ『心臓リハビリテーションについて』

1. パネルディスカッション

パネリスト：
青森県立中央病院 リハビリテーション科 須藤 宗 先生
八戸市立市民病院 リハビリテーション科 関 貴子 先生
医療法人芙蓉会村上病院 リハビリテーション科 奈良 享平 先生
弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 理学療法室 佐藤 勇季 先生

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

内科部長 高橋 広希 先生

弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座

助教 西崎 史恵 先生

2. 特別講演

座長：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

院長 岩田 学 先生

『心臓リハビリテーションの最近の動向』

講師：東北医科薬科大学医学部リハビリテーション学

教授 伊藤 修 先生

財団事業(主催)
脳卒中市民公開講座
平成30年度事業活動報告

「脳卒中市民公開講座2018」

開催日時：平成30年9月30日（日）14：00～16：00

開催場所：弘前市民文化交流館 大ホール（ヒロロ4F）

参加者：59名

テーマ『ためになる！「あたらない」ためのお話し』

1. 講演

講演1

『不整脈も脳梗塞の原因になるって知ってますか？』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
内科部長 目時 典文 先生

講演2

『脳ドックによる認知障害の早期発見』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター
副院長 内沢 隆充 先生

講演3

『高次脳機能障害って、どんな障害？』

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 医療相談室長
青森県高次脳機能障害支援拠点機関 支援コーディネーター
土岐 敏子 先生

2. パネルディスカッション

3. その他

- ・病院スタッフによる相談コーナー、脳卒中疑似体験コーナー等の設置

財団事業(主催)

黎明郷リハビリテーションケア勉強会

平成30年度事業活動報告

第11回 黎明郷リハビリテーションケア勉強会

テーマ：『脳卒中の病態と予防 ～脳卒中のサインを見逃すな!!～』

開催日時：平成30年7月27日(金) 18:00～19:00

開催場所：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 2F 大会議室

参加者：病院、老健、特養等職員 43名

講義 『脳卒中の病態と予防 ～脳卒中のサインを見逃すな!!～』

講師：弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 工藤 晃

学術報告—全国学会

年月日	学会・研究会名	演題	主演者	
1	平成30年 6月15日 ～ 6月16日	第5回日本心血管脳卒中学会 (東京都中央区)	DOACとワルファリン服用中の心原性 脳塞栓症の重症度の違い	萩井 譲士
2	平成30年 7月14日 ～ 7月15日	第24回日本心臓リハビリテーショ ン学会学術集会(横浜市)	脳卒中専門施設における心臓リハビ リテーションに対する認知度調査	小野 公久
3	平成30年 9月 7日 ～ 9月 9日	第52回日本作業療法学会 (名古屋市)	生活行為向上マネジメントの活用が 自宅復帰に有効であった脳梗塞患者 の一例	今井 寛人
4	平成30年 9月 8日	第5回保健科学研究会(弘前市)	体性感覚情報の入力増強が箸操作 の訓練効果に及ぼす影響	小田桐 紅葉
5	平成30年10月 3日 ～10月 4日	リハビリテーション・ケア合同研究 大会 米子2018(米子市)	当院の回復期病棟入院患者の転倒・ 転落の特徴と病棟環境との関係 ～全室個室病棟と多床室病棟を比較 して～	齋藤 曜子
6	平成30年10月 3日 ～10月 4日	リハビリテーション・ケア合同研究 大会 米子2018(米子市)	当院回復期病棟における入院患者の FIM得点の特徴と今後の課題	森山 尚子
7	平成30年10月 3日 ～10月 4日	リハビリテーション・ケア合同研究 大会 米子2018(米子市)	『入院調整ルール』を活用し見えてき た連携の課題	宇佐美 夏希
8	平成30年10月13日	第45回日本脳神経看護研究学 会(仙台市)	脳卒中専門病院での急性期病棟看 護師の『意欲』と『やりがい感・負担 感』に関する調査	稲葉 真衣子
9	平成30年10月13日	第45回日本脳神経看護研究学 会(仙台市)	安全ベルト解除に向けた基準作成の 検討	伊藤 早織
10	平成30年10月20日 ～10月21日	第12回日本腎臓病薬物療法学 会学術集会・総会2018(浜松市)	抗凝固薬持参患者の用量設定とアド ヒアランスについて	鳥谷部 翔
11	平成30年11月10日 ～11月11日	第16回日本神経理学療法学会 学術大会(大阪市)	後方平板支柱付き短下肢装具の足 継手軸と足関節軸の乖離が立脚中期 から後期の加速度実効値に与える影 響	小田桐 伶
12	平成30年11月10日 ～11月11日	第16回日本神経理学療法学会 学術大会(大阪市)	脳卒中患者における体幹固定型ア ームスリングが動作に及ぼす影響につ いて	新崎 泰恵
13	平成30年11月10日 ～11月11日	第34回日本義肢装具学会学術 大会(名古屋市)	左片麻痺患者に対する促通反復療 法と機能的電気刺激の併用訓練の経 験 ～日常生活で手指の良肢位保持を 目的としたサポーターを使用して～	椎名 滝太
14	平成30年11月23日 ～11月25日	第28回日本医療薬学会年会 (神戸市)	抗凝固薬患者における持参薬の用量 設定とアドヒアランスについて	鳥谷部 翔
15	平成31年 2月14日 ～ 2月15日	第34回日本静脈経腸栄養学会 学術集会(東京都品川区)	心理的要因に配慮した胃瘻管理や栄 養介入が功を奏し経口摂取が可能と なった一症例	船水 亜巳
16	平成31年 2月21日 ～ 2月22日	回復期リハビリテーション病棟協 会 第33回研究大会in舞浜・千葉 (浦安市)	認知機能障害による拒食患者へのケ ア ～背中をなでるタッチケアによる食事 摂取量の検討～	大川 麻美

17	平成31年 2月21日 ～ 2月22日	回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会in舞浜・千葉 (浦安市)	転倒リスクがある患者への赤外線センサーの効果的な調整方法を検討した一事例	成田 秀貴
18	平成31年 2月21日 ～ 2月22日	回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会in舞浜・千葉 (浦安市)	当院理学療法士における治療技術の向上・知識を得る方法に関する調査～第1報～	中村 学人
19	平成31年 2月21日 ～ 2月22日	回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会in舞浜・千葉 (浦安市)	脳卒中片麻痺患者における起き上がり動作に影響を及ぼす因子	伊藤 真由美
20	平成31年 2月21日 ～ 2月22日	回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会in舞浜・千葉 (浦安市)	Berg Balance Scaleの下位項目からみた脳卒中患者の歩行自立決定因に関する一考察	石田 舞
21	平成31年 2月21日 ～ 2月22日	回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会in舞浜・千葉 (浦安市)	当院の「移乗」における多職種連携の課題1 ～看護職員への“移乗の介助”に関するアンケート調査から～	住吉 佳奈子
22	平成31年 2月21日 ～ 2月22日	回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会in舞浜・千葉 (浦安市)	当院の「移乗」における多職種連携の課題2 ～作業療法士へのアンケート調査から～	小野 聡子
23	平成31年 2月21日 ～ 2月22日	回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会in舞浜・千葉 (浦安市)	若年患者の退院支援が困難になる要因とその考察	成田 笑美
24	平成31年 2月21日 ～ 2月22日	回復期リハビリテーション病棟協会 第33回研究大会in舞浜・千葉 (浦安市)	高齢者の摂食嚥下障害 ～二症例を通して～	成田 理紗
25	平成31年 2月22日 ～ 2月23日	第34回日本環境感染学会総会・ 学術集会(神戸市)	当院における抗菌薬用法用量一覧の作成と活用	花田 和大
26	平成31年 2月22日 ～ 2月23日	第34回日本環境感染学会総会・ 学術集会(神戸市)	全職員を対象としたワクチンプログラム ～麻疹・風疹・水痘・ムンプスワクチンの接種歴調査と追加接種～	毛利 暢子
27	平成31年 3月21日 ～ 3月23日	第44回日本脳卒中学会学術集会(横浜市)	進行性穿通枝梗塞周囲のCT低吸収域	内沢 隆充
28	平成31年 3月21日 ～ 3月23日	第44回日本脳卒中学会学術集会(横浜市)	抗凝固療法中の脳出血患者の予後の検討	萩井 譲士
29	平成31年 3月21日 ～ 3月23日	第44回日本脳卒中学会学術集会(横浜市)	脳卒中鑑別における救急搬入患者の訴える症状と初療時バイタルサインの有用性	白戸 弘志
30	平成31年 3月21日 ～ 3月23日	第44回日本脳卒中学会学術集会(横浜市)	脳卒中急性期患者に対する肺炎予防のための口腔ケアの効果	小出 宣子

学術報告—地方会

年月日	学会・研究会名	演題	主演者	
1	平成30年 5月19日 ～ 5月20日	第31回青森県作業療法学会 (五所川原市)	当院における訓練中のインシデントの 要因と傾向	算用子 暁美
2	平成30年 5月19日 ～ 5月20日	日本病院薬剤師会東北ブロック 第8回学術大会(盛岡市)	介護老人保健施設の定時薬を調剤薬 局による調剤から病院薬剤師による処 方代行PBPM調剤へ変更した効果の 検討	鳥谷部 翔
3	平成30年5月26日	第16回青森県脳卒中フォーラム (青森県脳卒中フォーラム、田辺 三菱製薬)(青森市)	D-dimer値による塞栓性梗塞とトル ソー症候群に伴う脳梗塞の鑑別	對馬 廸子
4	平成30年5月26日	第16回青森県脳卒中フォーラム (青森県脳卒中フォーラム、田辺 三菱製薬)(青森市)	脳卒中患者の歩行自立決定因と自立 度の予測	山本 賢雅
5	平成30年5月26日	第16回青森県脳卒中フォーラム (青森県脳卒中フォーラム、田辺 三菱製薬)(青森市)	心房細動患者へのDOAC予防投与は 患者本人の経済負担を軽減するか？	齋藤 輝之
6	平成30年 6月 2日	第166回日本循環器学会東北地 方会(盛岡市)	DOACとワルファリン服用中の心原性 脳塞栓症の重症度の違い	萩井 護士
7	平成30年 6月 9日 ～ 6月10日	第42回青森県理学療法士学会 (青森市)	訪問リハビリテーション介入後自宅 でのADLが向上した症例 ー在宅での関わりから学んだことー	岩渕 香澄
8	平成30年 6月 9日 ～ 6月10日	第42回青森県理学療法士学会 (青森市)	心臓リハビリテーション立ち上げま での取り組みと今後の課題	小山 裕美
9	平成30年 9月 8日	第55回(一社)日本脳神経外科 学会東北支部会 第38回日本脳神経血管内治療 学会東北地方会(仙台市)	症候性右内径動脈中等度狭窄症に 対する頸動脈ステント留置術1年後に ステント閉塞を認めた1例	齋藤 新
10	平成30年10月21日	平成30年度日本リハビリテーショ ン医学会東北地方会生涯教育 研修会(青森市)	脳卒中後の肩手症候群について	岩田 学
11	平成30年11月 3日 ～11月 4日	第36回東北理学療法学会 (青森市)	脳血管疾患患者の退院時T字杖歩行 パターンに及ぼす身体的特徴	山本 賢雅
12	平成30年11月 3日 ～11月 4日	第36回東北理学療法学会 (青森市)	身体の左右対称部位を同時に刺激す るTENSの即時的な鎮痛効果に関する 検討	鳴海 萌
13	平成30年11月 3日 ～11月 4日	第36回東北理学療法学会 (青森市)	複数操作の認知課題が歩行速度に及 ぼす影響	渡邊 洸
14	平成30年11月 3日 ～11月 4日	第36回東北理学療法学会 (青森市)	左胸椎部への経皮的電気神経刺激 (TENS)が方向性注意機能に及ぼす 影響	川村 真琴
15	平成30年12月 1日	第167回日本循環器学会東北地 方会(仙台市)	IgG4関連疾患に合併した冠動脈病変 を血管内超音波で観察し得た一例	山崎 堅
16	平成31年 3月 2日	第108回日本呼吸器学会東北地 方会 第138回日本結核病学会東北支 部学会 第13回日本サルコイドーシス/肉 芽腫性疾患学会東北支部会 (盛岡市)	サルコイドーシスの経過中に発症し た、悪性リンパ腫の診断が困難であ った1剖検例	奥村 文彦

学術報告—講演活動 等

年月日	名称	演題	主演者	
1	平成30年 5月18日	心原性脳塞栓症予防学術講演会(バイエル薬品)(弘前市)	当院における心原性脳塞栓症の最近の動向	萩井 譲士
2	平成30年 6月13日	鷹揚郷腎疾患セミナー(鷹揚郷腎研究所弘前病院)(弘前市)	摂食嚥下障害	三浦 順子
3	平成30年 6月29日	AOMORI Area Master Class～実臨床におけるDOACについて考える～(ブリストル・マイヤーズ スクイブ)(青森市)	当院における心原性脳塞栓症とDOACの最近の動向	萩井 譲士
4	平成30年 7月20日	脳卒中救急医療を考える会2018(弘前市)	脳卒中患者のバイタルサインと訴える症状	白戸 弘志
5	平成30年 7月27日	最新の高血圧症治療を学ぶ会in弘前(武田薬品)(弘前市)	脳卒中を予防できる食事とは	佐々木 都子
6	平成30年 7月27日	第11回黎明郷リハビリテーションケア勉強会(弘前市)	脳卒中の病態と予防～脳卒中のサインを見逃すな!!～	工藤 晃
7	平成30年 8月25日	第19回青森県臨床薬学会研究会(第一三共)(青森市)	嚥下障害を有する患者への内服・注射処方支援	鳥谷部 翔
8	平成30年 9月 8日	第22回輸液・栄養セミナー(青森県薬剤師研究会、青森県病院薬剤師会、大塚製薬)(青森市)	脳卒中後の尿路感染における現状と課題	倉内 寿孝
9	平成30年 9月19日	Aomori Heart Rhythm Seminar～不整脈診療の現在、そして未来を考える～(バイエル薬品)(青森市)	脳梗塞治療の最前線 ～急性期、そして予防へ～	齋藤 新
10	平成30年 9月30日	脳卒中市民公開講座2018(弘前市)	脳ドックによる認知障害の早期発見	内沢 隆充
11	平成30年 9月30日	脳卒中市民公開講座2018(弘前市)	不整脈も脳梗塞の原因になるって知ってますか？	目時 典文
12	平成30年 9月30日	脳卒中市民公開講座2018(弘前市)	高次脳機能障害って、どんな障害？	土岐 敏子
13	平成30年10月 5日	第30回弘前脳疾患臨床セミナー(第一三共)(弘前市)	脳卒中とてんかん	目時 典文
14	平成30年11月 1日	Meet The Specialist～現在・未来を見据えた抗凝固療法を考える～(ブリストル・マイヤーズ スクイブ)(弘前市)	現在・未来の腎機能を考える	鳥谷部 翔
15	平成30年11月 2日	兵庫医科大学脳神経外科教室同窓講演会(日本メドトロニック)(西宮市)	兵庫医科大学での経験～現状の取り組み、今後の課題～	齋藤 新
16	平成30年11月14日	つがる西北五広域連合地域自立支援協議会相談支援部会研修会(五所川原市)	高次脳機能障害について	土岐 敏子
17	平成30年11月16日	平成30年度第6回平川地域ケア推進会議(平川市健康福祉部)(平川市)	地域リハビリテーション～作業療法士ができること～	金谷 圭子
18	平成30年12月 8日	第1回高血圧市民公開講座(武田薬品)(弘前市)	減塩の大切さを確認しよう	佐々木 都子

年 月 日		名 称	演 題	主演者
19	平成30年12月12日	平成30年福祉施設就労支援・体験講習会(青森県社会福祉協議会)(青森市)	介護のキホンⅢ 嚥下障害・食事介助の基礎知識	盛 亨子
20	平成31年 1月23日	高齢者Total Care講演会(第一三共)(弘前市)	脳梗塞治療の最前線 ～抗凝固薬の位置づけを考える～	齋藤 新
21	平成31年 1月31日	弘前脳・心疾患臨床セミナー(第一三共)(弘前市)	自施設データから見たDOAC時代の脳卒中の現状	萩井 譲士
22	平成31年 2月20日	心不全・不整脈セミナー in HIROSAKI (小野薬品)(弘前市)	脳卒中内科医が遭遇する心房細動	白戸 弘志
23	平成31年 3月23日	秋田県病院薬剤師会平成30年度第2回薬剤業務研修会(第一三共)(秋田市)	北東北に多い脳卒中および嚥下障害を有する患者へのシームレスな薬剤業務の展開	鳥谷部 翔

学術報告—論文発表 等

年 月		雑誌名	論文題目	著者名 (共著含む)
1	平成30年 5月	Therapeutic Reserch Vol.39(5) (P.399-417)	エドキサバン口腔内崩壊錠(OD錠) 官能評価の臨床研究	山下 武志 萩井 護士
2	平成30年 7月	Journal of Cardiology Vol.72(1) (P.1-9)	Covert atrial fibrillation and atrial high- rate episodes as a potential cause of embolic strokes of undetermined source :Their detection and possible management strategy	富田 泰史 萩井 護士 目時 典文
3	平成30年 7月	循環器内科 Vol.84(11) (P.74-79)	心房細動の見つからない塞栓性脳梗塞	目時 典文
4	平成30年 8月	Stroke 2018 Vol.49(8) (P.1820-1827)	Clinical prediction rules to classify types of stroke at prehospital stage :Japan urgent stroke triage (JUST) score	内田 和孝 齋藤 新
5	平成30年 8月	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases Vol.27(8) (P.2074-2081)	Spontaneous micro-aggregation of platelets predicts clinical outcome in acute ischemic stroke	工藤 里沙 萩井 護士 目時 典文 清野 聡 馬場 佳子 保嶋 実
6	平成30年10月	脳血管内治療 スタート&スタンダード (P.182-191)	Ⅱ.スタンダード編 頭蓋外動脈病変	齋藤 新
7	平成30年11月	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases Vol.27(11) (P.3155-3162)	Low body mass index is a poor prognosis factor in cardioembolic stroke patients with nonvalvular atrial fibrillation	萩井 護士
8	平成30年11月	Annals of Neurology Vol.84(5) (P.694-704)	Neuroimaging and clinical outcomes of oral anticoagulant-associated intracerebral hemorrhage	Georgios Tsivgoulis 萩井 護士
9	平成31年 3月	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases (DOI:10.1016/j.jstrokecerebr ovasdis.2019.02.031)	Factors influencing quality of life in stroke patients: focus on eating habits	千葉 玲奈 千葉 順子 萩井 護士 保嶋 実
10	平成31年 3月	弘前医学 Vol.69(1-4) (P.119-123)	The relationship between arm swing and walking abilities in hemiplegia patients	薛 峻杰 岩田 学
11	平成31年 3月	青森県理学療法士会誌 理学療法研究 2019(36) (P.18-22)	健常者での加速度実効値に注目した後 方平板支柱付き短下肢装具と油圧制動 付き短下肢装具の歩行特性の違いに関 する検討	小田桐 伶

委員会報告

医療安全管理委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療安全管理体制を確立し、医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法について、指針を示すことにより、適切な医療安全管理を実践し、患者様へ安全な医療を提供することを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

医療安全管理委員会

- 委員長 岩田 学 (院長)
- 副委員長 樋口 三枝子 (看護部長) 藤田 尚子 (医薬品情報室副室長) ※
- メンバー 鎌田 孝篤 (副院長・医療安全推進室室長) ※
- 佐々木 都子 (内科部長・リハビリテーション部長)
- 算用子 暁美 (リハビリテーション部技師長代行) ※
- 工藤 雅令 (事務部長)
- 立林 修 (庶務課長)
- 山田 まり子 (副看護部長・医療安全推進室副室長) ◆

※医療安全推進室 (兼務)

◆専従医療安全管理者

3. 委員会等開催記録

医療安全管理委員会

回	開催日	内容
1	平成30年4月11日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 平成30年度第1回医療安全研修会について 医薬品副作用などの報告
2	平成30年5月9日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 リスクマネージャー会議について 委員会・リスクマネージャー会議委員について 医薬品副作用などの報告
3	平成30年6月13日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 平成30年度第1回医療安全研修会まとめ報告 医療安全委員会規程・名簿 医薬品副作用などの報告
4	平成30年7月18日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 第1回医療安全研修会 (補講) について 医薬品副作用などの報告

5	平成 30 年 8 月 15 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 医療安全対策地域連携について 植え込み型心電計移植術同意書について 医薬品副作用などの報告
6	平成 30 年 9 月 19 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 医療安全ラウンドチェックリスト・改善報告書について 医薬品副作用などの報告
7	平成 30 年 10 月 17 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 医療安全対策地域連携について 医薬品副作用などの報告
8	平成 30 年 11 月 21 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 災害対策マニュアルについて 医療安全対策地域連携について 医薬品副作用などの報告
9	平成 30 年 12 月 19 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 平成 30 年度 第 2 回医療安全・医薬品安全管理・医療ガス研 修会まとめ・研修会（補講）について 患者誤認について 災害対策マニュアルについて 医薬品副作用などの報告
10	平成 31 年 1 月 23 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 平成 30 年度 医療安全業務改善計画書評価について 医療安全対策地域連携相互点検について 医療安全標語について 医薬品副作用などの報告
11	平成 31 年 2 月 20 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 医療安全対策地域連携相互点検について 医薬品副作用などの報告
12	平成 31 年 3 月 20 日	医療事故報告書まとめ・院内巡視報告 平成 30 年度 医療安全部門別業務改善計画評価について 医療安全対策地域連携相互点検 提言報告 医安全確保のための行動制限説明・同意書について 医薬品副作用などの報告

医療安全研修会

回	開催日	内 容
1	平成 30 年 8 月 1 日～ 9 日	「KYT」転倒・転落防止対策について
2	平成 30 年 12 月 3 日～ 7 日	「医療安全文化の醸成ってなに」 「薬を安全に使用するには」 「医療ガスの扱い方」

院内巡視

開催日	場所	内容
平成 30 年 4 月 19 日	1 病棟	配薬準備・与薬の手順 ルール・マニュアル遵守
平成 30 年 5 月 17 日	2 病棟	配薬準備・与薬の手順 注射ミキシングの手順
平成 30 年 6 月 21 日	3 病棟	配薬準備・与薬の手順 作業環境の整理・整頓
平成 30 年 7 月 19 日	4 病棟	配薬準備・与薬の手順 作業環境の整理・整頓
平成 30 年 8 月 16 日	5 病棟	配薬準備・与薬の手順 作業環境の整理・整頓
平成 30 年 9 月 20 日	外来・歯科	作業環境の整理・整備 注射ミキシングの手順
平成 30 年 10 月 18 日	臨床検査室	作業環境の整備 マニュアルの整備 患者誤認
平成 30 年 11 月 15 日	診療放射線室	機器の安全確認 作業環境の整備 マニュアルの整備
平成 30 年 12 月 21 日	栄養室・厨房	安全感染に配慮した整理・整頓・清潔
平成 31 年 1 月 24 日	リハビリ室	患者の動線確保と安全性の配慮 心リハ急変対応
平成 31 年 2 月 21 日	薬剤室	効率的な作業環境の整備
平成 31 年 3 月 14 日	事務室・SPD	整理・整頓 患者誤認防止

4. 活動要約

- ・インシデント・アクシデント事例の分析・再発防止の検討
- ・医療安全管理に関する全般事項の調査・報告・審議
- ・医療事故防止のための提言
- ・医薬品副作用の報告
- ・医療安全研修会（年 2 回開催）参加率 100%（補講含み）

第 1 回医療安全研修会「転倒・転落防止対策」

K Y T 方式で研修会を実施。事例を多職種間で共有・ディスカッションすることで根本的な要因を分析し対策を検討。

第 2 回医療安全研修会・医薬品安全管理研修会・医療ガス研修会

「医療安全文化の醸成ってなに」「薬を安全に使用するには」「医療ガスの扱い方」

全ての職員が「患者安全」が最も重要であるということ認識し、安全文化・安全な職場風土づくりに努めてもらう。患者の安全が第一で同時に医療従事者の安全も守るためには、ルールを遵守すること、コミュニケーションエラーを起こさないことが大事であることを理解してもらう。

- ・インシデント・アクシデントレポートの収集

インシデント・アクシデント事例を分析し、結果を現場へフィードバックする。

- ・院内ラウンド

定期的な院内ラウンドにより安全な作業環境、ルール・マニュアル遵守状況の把握をする。

平成 30 年度まとめ

今年度は昨年度と比較し患者誤認や情報共有不足によるインシデントの事例が多かった。再発防止に努めるために各部署に医療安全標語を作成してもらい安全の意識を高めてもらった。今後も患者様の安全を守るため部署リスクマネージャーと連携しながらマニュアル・ルールの遵守、5 S 活動・K Y T を推進しスタッフの教育・指導に努めていく。

医療器材管理委員会

1. 活動目的

本委員会は、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける診療材料及び診療に必要な医療機器（以下「医療材料等」という。）の安全採用、死蔵化の防止、その他使用の効率化及び医療材料等の試用に関する事項を審議し、病院運営の健全化を図ることを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

委員長	医 局	内沢 隆充	（副院長）	
メンバー	医 局	鎌田 孝篤	（副院長・医療機器安全管理者）	
		清野 聡	（医局長兼内科部長・感染対策室長）	
		看護部	中田 智子	（医療器材管理室副室長代行）
メンバー	看護部	山田 まり子	（医療安全管理者）	
		毛利 暢子	（院内感染管理者）	
		事務部	今 基	（企画運営課長）
		菊池 真	（契約購入係主任）	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成30年4月26日	初回のため委員顔合わせ 委員会概要（要綱）、進め方について 委員会題材対象となる選定について
2	平成30年5月31日	委員会概要（要綱）、各申請様式、フローについて 医療器材登録開始時期について 医療材料変更案内について
3	平成30年6月22日	医療機器の運用について報告 医療器材申請登録を開始について 医療器材管理室の体制について
4	平成30年7月20日	医療機器破棄について審議 委員会要綱について申請様式確認 医療器材申請について審議
5	平成30年8月30日	7月分の医療器材申請について報告 委員会要綱について申請様式確認 医療器材申請について審議 未使用医療機器について確認
6	平成30年9月27日	8月分の医療器材申請について報告 未使用医療機器について報告 医療器材申請について審議

7	平成 30 年 10 月 25 日	9 月分の医療器材申請について報告 新規医療器材操作説明実施について報告 医療器材申請について審議 副室長変更について
8	平成 30 年 11 月 30 日	10 月分の医療器材申請について報告 超音波エコー更新についてメーカー別説明会の案内 医療器材申請について審議 配置換えに伴い委員変更について
9	平成 30 年 12 月 27 日	11 月分の医療器材申請について報告 超音波エコー説明会について報告 医療器材申請について審議
10	平成 31 年 1 月 24 日	12 月分の医療器材申請について報告 超音波エコーについて経過報告 医療器材申請について審議
11	平成 31 年 2 月 28 日	1 月分の医療器材申請について報告 超音波エコーについて経過報告 医療器材申請について報告 医療機器破棄について審議
12	平成 31 年 3 月 28 日	2 月分の医療器材申請について報告 超音波エコーについて経過報告 自主回収品について報告 定期点検機器について報告

4. 活動要約

- ・今年度より委員会活動開始のため、委員会概要（要綱）、進め方、フローチャート、各申請様式を作成し運用開始。
- ・医療器材等新規購入の採否に関して審議。
- ・既採用医療材料等の削除に関して調査・報告・審議。
- ・医療器材等の試用に関して報告・審議。
- ・医療器材等の適正な使用及び安全管理に関して調査・報告・審議。
- ・医療器材等の更新に関して調査・報告・審議。

感染対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医療関連感染防止のために、耐性菌検出状況・抗菌薬の使用状況を把握し院内感染対策の業務が適正に遂行されているかを審議することを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

委員長	岩田 学	(院長)		
メンバー	清野 聡	(医局長・内科部長)	萩井 護士	(内科部長)
	樋口 三枝子	(看護部長)	山田 まり子	(看護師長)
	算用子 暁美	(リハビリテーション部技師長代行)	阿保 文子	(臨床検査技師長)
	鳥谷部 翔	(薬剤師長)	藤田 佳子	(主任管理栄養士)
	工藤 雅令	(事務部長)	倉内 寿孝	(主任薬剤師)
	毛利 暢子	(感染対策室副室長代行) ※	花田 和大	(薬剤師)

※院内感染管理者

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成30年4月18日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 ICTよりラウンド状況など報告
2	平成30年5月16日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 ICTよりラウンド状況など報告 平成30年度HBワクチンプログラム開始 平成30年度小児ワクチンプログラム開始
3	平成30年6月20日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 ICTよりラウンド状況など報告 第1回感染防止対策合同カンファレンス報告
4	平成30年7月18日	感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 ICTよりラウンド状況など報告

5	平成 30 年 8 月 15 日	<p>感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告</p>
6	平成 30 年 9 月 19 日	<p>感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告 第 2 回感染防止対策合同カンファレンス (平成 29 年度津軽感染制御フォーラム) 報告</p>
7	平成 30 年 10 月 17 日	<p>感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告 平成 30 年度インフルエンザワクチン接種開始</p>
8	平成 30 年 11 月 21 日	<p>感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告</p>
9	平成 30 年 12 月 19 日	<p>感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告</p>
10	平成 31 年 1 月 23 日	<p>感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告 第 3 回感染防止対策合同カンファレンス報告</p>
11	平成 31 年 2 月 20 日	<p>感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告</p>
12	平成 31 年 3 月 20 日	<p>感染情報レポートの検討 抗菌薬・消毒薬使用状況の報告・検討 感染対策室より院内感染状況 I C Tよりラウンド状況など報告 第 4 回感染防止合同カンファレンス報告</p>

院内感染防止対策研修会

回	開催日	内 容
1	平成 30 年 7 月 23 ～ 31 日	医療廃棄物について
2	平成 30 年 10 月 22 ～ 11 月 9 日	正しいマスク装着「N95 マスクフィットテスト」

4. 活動要約

- ・ 感染情報レポートの評価・検討

院内感染報告患者と報告細菌数を可視化。

細菌報告後は早期に介入を行い結果も含め報告し、注意点などをフィードバックしている。

委員会で検討・注意喚起を行う事で感染防止に繋がっている。

- ・ 薬剤室より、抗菌薬・消毒剤使用状況報告

抗菌薬使用状況などから、病棟毎の特殊性を把握し感染症に関する治療や抗菌薬使用を可視化する事で、感染状況や治療に繋げる事が出来ている。

今後は、抗菌薬使用状況から適正使用であるかなども介入する指標作成を行う。

- ・ ICTよりラウンド状況報告

院内環境巡視を通し、院内の感染対策実施状況の把握が出来ている。

病院全体で改善が必要な部分について問題提起し改善が図られた。次年度も継続。

- ・ 院内感染防止対策研修会（年 2 回）

流行を踏まえて必要な研修を実施。参加者の参加型実践研修を行う事で現場に活用できている。

今後も現場の声を踏まえた研修を行っていく。

栄養管理委員会

1. 活動目的

病院給食が合理的に運営されるために栄養管理委員会を開催し、患者の適正な栄養管理を行い、医療の質の向上を計ることを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

委員長	佐々木 都子 (内科部長・リハビリテーション部長)	
委員	鳥谷部 翔 (薬剤師長)	阿保 文子 (臨床検査技師長)
	横濱 岳 (看護主任)	今井 真子 (看護師)
	高阪 理恵 (看護師)	福士 真美 (看護師)
	阿保 智加 (看護師)	佐藤 眞紀子 (看護師)
	成田 理紗 (言語聴覚士)	佐々木 哲裕 (医事係主任)
	角田 七海 (医事係)	鳴海 悦子 (管理栄養士長)
	藤田 佳子 (主任管理栄養士)	船水 亜巳 (管理栄養士)
	大川 みこと (管理栄養士)	
	三橋 義宗 (管理栄養士・日清医療食品)	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成30年4月4日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 新年度の栄養管理委員会・NST委員構成について 食事開始時の連絡について 補助食品試食
2	平成30年5月2日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について (子供の日・春の食事会) 食中毒予防について
3	平成30年6月6日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 春の食事会総評

4	平成30年7月4日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（七夕・土用の丑） 食中毒予防について
5	平成30年8月1日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（お盆） 8月以降のNST活動について リハビリサポート飲料について
6	平成30年9月5日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 アレルギー食品について 備蓄粥の提供について
7	平成30年10月2日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（秋の食事会） NST勉強会案内
8	平成30年11月7日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（クリスマス食事会） 栄養管理計画書について 衛生管理について（ノロウイルスなど）
9	平成30年12月5日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 NST報告 アンケート調査結果報告 行事食の対応について（クリスマス食事会） 体組成計の使用について（栄養・リハ評価目的） メディカルスタッフ勉強会案内

10	平成 31 年 1 月 9 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 クリスマス食事会総評 行事食の対応について（節分）
11	平成 31 年 2 月 6 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 行事食（バレンタイン・ひな祭り） 栄養管理計画書の運用について
12	平成 31 年 3 月 6 日	栄養教室日程 栄養指導件数報告 N S T 報告 アンケート調査結果報告 栄養管理計画書運用について確認 次年度の食事会・栄養教室日程 次年度の栄養管理委員会・N S T の委員構成について

4. 活動要約

- ・食事会や行事食は例年通り実施。
- ・集団栄養指導、個人栄養指導件数は前年比と同様。外来栄養指導件数も維持出来ている。
- ・食事アンケートでは満足・やや満足度が前年度と変わらずほぼ横ばい。（+4%）
味付けに関する意見が依然多い為、今後も調味料の調整や献立の見直しを図り、満足度の向上に努める。
- ・2月から栄養管理計画書の運用を変更。各スタッフへの周知徹底を図った。
- ・12月に体組成計を購入。急性期、回復期病棟で栄養管理、リハビリ評価として使用。

褥瘡対策委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

委員長	内沢 隆充	(副院長)	
副委員長	栗嶋 昭子	(看護師)	
メンバー	樋口 三枝子	(看護部長)	白川 笑美子 (看護師)
	石田 瑞穂	(薬剤師)	須藤 恵美子 (看護師)
	藤田 佳子	(主任管理栄養士)	工藤 妥恵 (看護師)
	工藤 育子	(リハ主任/理学療法士)	千葉 美由紀 (看護師)
	椎名 滝太	(作業療法士)	川村 紘子 (看護師)
	菊池 真	(契約購入係主任)	齋藤 理恵 (医事課長代行)

3. 委員会開催のまとめ

回	開催日	内 容
1	平成30年4月26日	4月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 3月分のリスク因子の評価について報告 新年度の目標、新スタッフの自己紹介を実施
2	平成30年5月24日	5月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 4月分のリスク因子の評価について報告
3	平成30年6月28日	6月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 5月分のリスク因子の評価について報告
4	平成30年7月26日	7月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 6月分のリスク因子の評価について報告
5	平成30年8月30日	8月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 7月分のリスク因子の評価について報告
6	平成30年9月27日	9月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 8月分のリスク因子の評価について報告

7	平成 30 年 10 月 25 日	10 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 9 月分のリスク因子の評価について報告
8	平成 30 年 11 月 22 日	11 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 10 月分のリスク因子の評価について報告
9	平成 30 年 12 月 27 日	12 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 11 月分のリスク因子の評価について報告
10	平成 31 年 1 月 24 日	1 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 12 月分のリスク因子の評価について報告
11	平成 31 年 2 月 28 日	2 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 1 月分のリスク因子の評価について報告
12	平成 31 年 3 月 28 日	3 月褥瘡患者について報告 エアマット、体位交換枕について報告 2 月分のリスク因子の評価について報告 反省点、来年度へ向けての目標について発表報告会を実施

4. 活動要約

- ・ 定例委員会において、各病棟での褥瘡発生状況と治療経過について確認検討した。
 - ・ 定例委員会において、体位交換枕等の使用状況について確認した。
- 1) リハスタッフ、栄養士、薬剤師がその専門性を生かし、予防や栄養補助食品、薬剤に関する情報を積極的に提供していく。
 - 2) 褥瘡に関する学会や研修会への参加を促進する。
 - 3) 定例委員会で勉強会を開催する。
 - 4) 褥瘡に関する病棟スタッフ間での質問や話し合いが活発になるように、褥瘡対策委員が積極的に啓蒙活動を行う。

臨床検査適正化委員会

1. 活動目的

本委員会は、当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

委員長	萩井 讓士	(内科部長)		
メンバー	岩田 学	(院長)	清野 聡	(医局長・内科部長)
	阿保 文子	(臨床検査技師長)	倉内 寿孝	(主任薬剤師)
	山田 まり子	(看護師長)	毛利 暢子	(感染対策室副室長代行)
	齋藤 理恵	(医事課長代行)	伊藤 佳織	(医事係主任)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成30年4月18日	※委員会名称変更 精度管理実施報告 精度管理結果報告 血液型判定機器等の定期点検
2	平成30年5月16日	一般細菌検査の契約内容について検討 外注検査の契約先検討開始
3	平成30年6月20日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 血液ガス分析装置ソフトウェア更新 HDL コレステロール、LDL コレステロールの試薬検討
4	平成30年7月18日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 多項目自動血球分析装置の修理
5	平成30年8月15日	外注検査の契約先の検討延期 全自動尿中有形成分分析装置修理
6	平成30年9月19日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 甲状腺検査の結果値について検討
7	平成30年10月17日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 血液型判定機器等の定期点検 診療報酬査定に対する検査項目の検討
8	平成30年11月21日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 パフアスト(Dダイマー、BNP測定器)の不具合 診療報酬査定に対する検査項目の検討

9	平成 30 年 12 月 19 日	精度管理実施報告 診療報酬査定に対する検査項目の検討 自動生化学分析装置の定期点検 外注検査契約先決定
10	平成 31 年 1 月 23 日	精度管理結果報告 精度管理実施報告 平成 31 年度予算申請提出の検査機器を検討 遠心機の定期点検
11	平成 31 年 2 月 20 日	多項目自動血球分析装置定期点検 検査機器の修理
12	平成 31 年 3 月 20 日	外注検査へ変更する検査項目について 精度管理実施報告 精度管理結果報告 全自動免疫測定装置定期点検 検査値に関するインシデント発生について

3. 活動要約

- ・ 検査データの精度の向上に努める
- ・ 最新の検査項目の提供
- ・ 検査機器の保守、新機種の検討
- ・ 研究活動
- ・ 治験への参加協力

薬事審議委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医薬品の採用及び削除に関して審議し、医薬品適正使用を目的に活動するものである。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

委員長 清野 聡 (医局長 兼 薬剤室長・医薬品情報室長)

委員 内沢 隆充 (副院長)

馬場 佳子 (内科部長)

目時 典文 (内科部長)

藤田 尚子 (医薬品情報室副室長)

鳥谷部 翔 (薬剤師長) 【事務局】

工藤 雅令 (事務部長)

今 基 (企画運営課長)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成30年4月9日	平成30年度規定、委員変更の確認 後発医薬品85%にむけた検討 P P Iの検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
2	平成30年5月14日	患者限定採用⇒本採用への検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
3	平成30年6月11日	規定変更の検討 患者限定採用⇒本採用への検討 後発医薬品採用検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
4	平成30年7月9日 (紙上会議)	後発医薬品採用検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
5	平成30年8月13日	構成委員の変更について 後発医薬品採用検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告

6	平成 30 年 9 月 10 日	採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
7	平成 30 年 10 月 15 日	医薬品の採用・変更等取扱いルールの検討 患者限定採用⇒本採用への検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 カタクロット注射液製造販売社の継承について
8	平成 30 年 11 月 12 日	後発医薬品採用検討 患者限定採用⇒本採用への検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 レパーサ AD、モーター停止の調査依頼 スローケー錠販売終了及び経過措置について
9	平成 31 年 12 月 10 日	後発医薬品採用検討 患者限定採用⇒本採用への検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告 メインテート錠の流通状況について
10	平成 31 年 1 月 21 日	患者限定採用⇒本採用への検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
11	平成 31 年 2 月 18 日	患者限定採用⇒本採用への検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告
12	平成 31 年 3 月 11 日	後発医薬品検討 採用申請状況、限定購入品目、デッドストック使用動向確認 後発医薬品採用割合報告

※平成 30 年 7 月は構成員の変更、不在があり紙上会議とした。

4. 活動要約

- ・ 事務局である薬剤室薬剤師が各製造販売会社ホームページ、MR 訪問、添付文書やインタビューフォームなどから情報を入手、資料を作成し薬事審議委員会にて審議する。
- ・ 県内医療機関の採用状況及び流通を定期的に聴取し評価する。
- ・ 採用中の先発医薬品の中で①適応に違いがない、②形状や大きさが先発と似ている、③後発医薬品のみの特徴がある、など変更可能と考えられる医薬品を積極的に後発品に切り替える。新規採用の場合でも可能であれば後発医薬品とする。
- ・ 新規採用薬、採用変更及び中止薬を院内に回覧し周知する。
- ・ デッドストック情報を毎月共有し不良在庫にならないようにする。
- ・ 後発医薬品採用割合を、毎月チェックする。
- ・ 問題発生があれば速やかに薬事審議委員会に報告し採用継続の適否を検討する。

診療記録管理委員会

1. 活動目的

診療記録等の診療情報資料を適正かつ効率的に管理し、診療情報管理業務の円滑な運営を図ることを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

委員長	鎌田 孝篤	副院長
委員	鳥谷部 翔	薬剤師長
	蒔苗 敦子	看護師長
	工藤 くみ	看護主任
	小野 公久	リハ主任
	小比類巻 顕子	リハ主任
	川村 隆行	診療放射線技師長
	阿保 文子	臨床検査技師長
	鳴海 悦子	管理栄養士長
	今 基	企画運営課長
	齋藤 理恵	医事課長代行
	葛西 志保	医師事務作業補助係
	奈良 麻里	医師事務作業補助係
	小田桐 珠美	医師事務作業補助係
	佐々木 哲裕	医事係主任（診療記録管理者）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	平成30年4月11日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 入院時リハビリテーション実施計画書について モニター心電図の観察結果について 心臓リハ用リハビリテーション総合実施計画書について
2	平成30年5月9日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 入院時リハビリテーション実施計画書について モニター心電図の観察結果について 心臓リハ用リハビリテーション総合実施計画書について
3	平成30年6月8日	退院時サマリ作成状況報告 カルテ開示報告 入院時リハビリテーション実施計画書について 外来心臓リハ実施計画書について モニター心電図の観察結果について 認知機能検査における評価記載について

4	平成30年 7 月 6 日	<p>退院時サマリ作成状況報告</p> <p>カルテ開示報告</p> <p>外来心臓リハ実施計画書について</p> <p>モニター心電図の観察結果について</p> <p>認知機能検査における評価記載について</p>
5	平成30年 8 月 3 日	<p>退院時サマリ作成状況報告</p> <p>カルテ開示報告</p> <p>外来心臓リハ実施計画書について</p> <p>認知機能検査における評価記載について</p> <p>代行入力における職種権限の設定について</p> <p>H S R データ収集利用の運用について</p>
6	平成30年 9 月 7 日	<p>退院時サマリ作成状況報告</p> <p>カルテ開示報告</p> <p>認知機能検査における評価記載について</p> <p>代行入力における職種権限の設定について</p> <p>H S R データ収集利用の運用について</p>
7	平成30年10月 5 日	<p>退院時サマリ作成情報報告</p> <p>カルテ開示報告</p> <p>認知機能検査における評価記載について</p> <p>代行入力における職種権限の設定について</p>
8	平成30年11月 2 日	<p>退院時サマリ作成情報報告</p> <p>カルテ開示報告</p> <p>認知機能検査における評価記載について</p> <p>代行入力における職種権限の設定について</p> <p>同意書の設置について</p>
9	平成30年12月 7 日	<p>退院時サマリ作成情報報告</p> <p>カルテ開示報告</p> <p>同意書の設置について</p> <p>栄養管理計画書の様式変更について</p> <p>栄養評価記載の方法について</p> <p>入院診療計画書へのスタッフ氏名記載について</p> <p>カルテ開示における院内規程の見直し</p>
10	平成31年 1 月 11 日	<p>退院時サマリ作成情報報告</p> <p>カルテ開示報告</p> <p>同意書の設置について</p> <p>栄養管理計画書の様式変更について</p> <p>入院診療計画書へのスタッフ氏名記載について</p> <p>カルテ開示における院内規程の見直し</p>

11	平成 31 年 2 月 8 日	退院時サマリ作成情報報告 カルテ開示報告 栄養管理計画書の様式変更について 入院診療計画書へのスタッフ氏名記載について 診療記録の廃棄について
12	平成 31 年 3 月 8 日	退院時サマリ作成情報報告 カルテ開示報告 入院診療計画書へのスタッフ氏名記載について 診療記録の廃棄について HDS-R 評価テンプレートの改修について 外来管理加算算定時のカルテ記載について 退院時リハ指導のカルテ記載について

4. 活動要約

- ・不備があると考えられる診療記録について、提案し改善に努めた。

電子保存システム管理委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターに電子保存システム管理委員会を設け、診療録および電子保存システムの適正な管理、運用を行うことを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

委員長	内沢 隆充（副院長）	
メンバー	中田 智子（副看護部長）	長谷川国俊（理学療法室副アドバイザー）
	齋藤 信一（作業療法室副室長）	鳥谷部 翔（薬剤師長）
	鳴海 悦子（管理栄養士長）	阿保 文子（臨床検査技師長）
	川村 隆行（診療放射線技師長）	立林 修（庶務課長・運用責任者）
	盛 啓介（医療情報係係長・システム管理者）	今田 信之（医療情報係・システム管理者）
オブザーバー	シグマソリューションズ	

3. 委員会開催記録

・ 電子保存システム管理委員会

毎月第1水曜日 14:30～(会議室1)

診療録・電子カルテシステム等の管理、運用等に関する事項の検討

各部署委員 11名

オブザーバー 0～2名

主な活動内容

回	開催日	内容
1	平成30年4月4日	診療科「耳鼻咽喉科」追加 患者プロフィール「身長/体重」の入力制限について 新画像ビューアのデモ
2	平成30年5月2日	未来日での入院決定オーダについて
3	平成30年6月13日	委員長の後任について 新画像サーバー「NOBORI」稼働
4	平成30年7月4日	心電図画像に生年月日が付加されていない件について 外用薬の一部用法の非表示化
5	平成30年8月1日	半年以上前の外来/救急受付患者の検索について 外来湿布薬処方時の入力操作について 偽警告サイトの多発(院内LAN、インターネット使用時)
6	平成30年9月5日	無線通信環境が不安定な件について UPS不良による薬剤システムへの影響について 心リハ CPX 入院パスの作成
7	平成30年10月3日	当院ホームページが参照できない件について 植込み型心臓モニタ (Reveal LINQ) のパス等追加
8	平成30年11月7日	院内LANサーバーの更新 他病院での電子カルテウイルス感染について
9	平成30年12月5日	部門連携サーバーの障害発生について 電子カルテ ログインパスワード期限の変更(2ヶ月)

10	平成 31 年 1 月 9 日	ナースコールサーバーの動作不良について 業者作業による、サーバー系ネットワーク障害について
11	平成 31 年 2 月 6 日	医療関係者間コミュニケーションアプリ「JOIN」導入 JOIN 導入による、一部エリアのネットワーク環境の整備 当院ホームページ、病院メールが参照できない件について
12	平成 31 年 3 月 6 日	遠隔読影システム(CAFI)導入 患者掲示板の削除権限を付加(看護師) ノート電子カルテのバッテリー劣化について

4. 活動要約

電子カルテを始め各システム等の問題点の改善、運用案についての検討。

DPCコーディング委員会

1. 活動目的

本委員会は、標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディング（適切な診断を含めた診断群分類の決定をいう。）を行う体制を確保することを目的とする。

2. 構成

委員長	医療部	鎌田 孝篤	（副院長）
メンバー	医療部	清野 聡	（医局長・内科部長）
		萩井 譲士	（内科部長）
		鳥谷部 翔	（薬剤師長）
		樋口 三枝子	（看護部長）
看護部		小田桐 千代	（看護師長）
		金崎 真紀子	（看護師長）
		事務部	齋藤 理恵
		佐々木 哲裕	（医事係主任／診療記録管理者）

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 30 年 5 月 29 日	S O F Aスコアへの対応について（敗血症） 未コード化傷病名への対応について検討
2	平成 30 年 8 月 27 日	未コード化傷病名への対応について検討（脳梗塞の分類）
3	平成 30 年 11 月 26 日	未コード化傷病名への対応について検討（脳梗塞の分類）
4	平成 31 年 2 月 25 日	未コード化傷病名への対応について検討（肺炎の分類）

4. 活動要約

サマリをはじめとした診療記録及びデータ提出における入力内容の確認。

倫理委員会

1. 活動目的

本委員会は、弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける医学・医療の倫理的問題について協議するとともに、病院長又は医療部長の諮問を受けて、当院に所属する者が当院において行う医療行為、医学研究及び教育等が医の倫理に関するヘルシンキ宣言等の趣旨に沿って倫理的配慮の下に行われるか審査する。

2. 構成員

委員長 松本 茂男 (副院長)
メンバー 鎌田 孝篤 (副院長)
清野 聡 (医局長・内科部長)
樋口 三枝子 (看護部長)

【病院外部の学識経験者】

弘前大学大学院保健学研究科看護学領域
教授 長内 智宏
青森県立保健大学健康科学部理学療法学科
准教授 勘林 秀行
元弘前大学医学部保健学科 教授
二唐 東朔
社会保険労務士 石塚 紀子
【事務局】
立林 修 (庶務課長)

3. 活動記録

A 審議あり (変更申請を除く新規申請のみ表示)

承認日	研究名	申請者
平成 30 年 7 月 9 日	脳卒中後遺症者のベッド上動作獲得に対する理学療法アプローチの症例報告書の作成	弘前大学大学院保健学研究科 准教授 高見 彰淑
平成 30 年 8 月 24 日	赤外線センサーの感知状況の把握とその対策の検討	3 病棟看護師 成田 秀貴
平成 30 年 9 月 6 日	急性期虚血性脳卒中の再開通療法における施設間医療連携に関する調査研究	内科副部長 齋藤 新
平成 30 年 11 月 2 日	Virtual Reality での疑似的な歩行映像が実際の歩行パラメーターに及ぼす影響	3 病棟理学療法士 渡邊 洸
平成 30 年 11 月 20 日	脳梗塞の既往を有する非弁膜症性心房細動患者に対し、エドキサバンによる抗凝固療法を基礎治療にカテーテルアブレーションの有用性を検証する多施設共同ランダム化比較研究 (STABLED study)	内科部長 目時 典文

平成 31 年 3 月 15 日	脳卒中患者の病識と睡眠が QOL に与える影響	弘前大学大学院保健学研究科 看護学領域 教授 長内 智宏
------------------	-------------------------	------------------------------------

B 審議を必要としないもの（委員長決裁）

承認日	研究名	申請者
平成 30 年 6 月 6 日	脳血管疾患患者の退院時 T 字杖歩行パターンに及ぼす身体的特徴 ：発症後 8 週時機能からの検討	3 病棟 理学療法士 山本 賢雅
平成 30 年 6 月 6 日	施設間での LVFX AUD・DOT 推移と E.coli 感受性の関連性における比較検討	主任薬剤師 倉内 寿孝
平成 30 年 7 月 4 日	抗凝固療法患者における持参薬の用量設定とアドヒアランスについて	薬剤師長 鳥谷部 翔
平成 30 年 8 月 22 日	当院職員における小児ウイルス性疾患に対する抗体価保有状況調査	感染対策室 毛利 暢子
平成 30 年 8 月 22 日	脳卒中片麻痺患者における起き上がり動作に影響を及ぼす要因	5 病棟 理学療法士 伊藤 真由美
平成 30 年 8 月 22 日	脳卒中片麻痺患者の歩行能力と Berg Balance Scale 評価項目の関係	4 病棟 理学療法士 石田 舞
平成 30 年 9 月 28 日	脳卒中発症後の尿路感染症における現状と課題	主任薬剤師 倉内 寿孝
平成 30 年 12 月 19 日	脳卒中専門施設における心疾患・一次救命処置に関する意識調査	2 病棟 作業療法士 リハ主任 小野 公久
平成 31 年 3 月 29 日	BAD (LSA 領域) におけるボルベンを用いた輸液療法の安全性	内科副部長 藤田 彩香
平成 31 年 3 月 29 日	ワーレンベルグ症候群ににおけるボルベンを用いた輸液療法の安全性	内科副部長 藤田 彩香

4. 活動要約

- ・倫理審査は、紙上にて実施し、各委員が審査の上、必要に応じて申請者へ質問、指摘を行った。
また、不備な点については、修正、追加の上再申請を求めた上で再審査した。
- ・平成 30 年度 新規研究申請件数
審議あり：6 件、審議なし（委員長決裁）：10 件
※申請された研究はすべて承認

衛生委員会

1. 活動目的

衛生委員会の構成、運営、調査審議事項などを定め、衛生管理活動の円滑な推進を図ることを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

委員長	岩田 学	院長 (衛生管理者)
	高橋 広希	内科部長 (産業医)
	清野 聡	医局長 (衛生管理者)
	松本 茂男	副院長
	工藤 雅令	事務部長
	樋口 三枝子	看護部長
	成田 幸英	看護主任
	毛利 暢子	感染対策室副室長代行
	三浦 順子	言語聴覚室副室長
	川村 隆行	診療放射線技師長
	算用子 暁美	作業療法室長
	嵯峨 望	庶務係主任
	立林 修	庶務課長 (事務局)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成30年4月25日	感染症罹患状況、労災事故（昨年度件数まとめ）について 春の健康診断実施について 産業医の巡回（医学研究室、物品管理室、ごみ収集庫、不潔リネン庫）他について報告および確認を行った。 平成30年度メンタルヘルス研修会の日程、講師について決定。 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
2	平成30年5月30日	感染症罹患状況、労災事故について 春の健康診断、ストレスチェック実施（外部委託）について 産業医の巡回（臨床検査室、生理検査室、放射線室）他について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
3	平成30年6月27日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 春の健康診断の実施状況について 産業医の巡回（医局、薬剤室、D I 室）他について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について

4	平成 30 年 7 月 25 日	感染症罹患状況、労災事故について 秋の健康診断の予定について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について 7月より委員長交代となる
5	平成 30 年 8 月 29 日	感染症罹患状況、労災事故について 春の健康診断の集計結果について 産業医の巡回について7月（栄養室、厨房、事務室、医療相談室）、 8月（施設管理課、ボイラー室・機械室（中央棟、東棟））他について報告 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
6	平成 30 年 9 月 26 日	感染症罹患状況、労災事故について 秋の職員健診、ストレスチェック実施予定について 産業医の巡回（5病棟、感染対策室）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について メンタルヘルス研修会開催（9/10～9/14）
7	平成 30 年 10 月 31 日	感染症罹患状況、労災事故について 秋の職員健診、ストレスチェック実施について 産業医の巡回（1病棟）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
8	平成 30 年 11 月 28 日	感染症罹患状況、労災事故について 秋の職員健診、ストレスチェック実施状況について 産業医の巡回（4病棟）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
9	平成 30 年 12 月 26 日	感染症罹患状況、労災事故について 産業医の巡回（3病棟）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について ストレスチェックの実施結果（一次集計）について
10	平成 31 年 1 月 30 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 秋の職員健診、ストレスチェック実施結果について 産業医の巡回（2病棟）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について
11	平成 31 年 2 月 27 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 産業医の巡回（居宅・訪問リハ・地域連携室、1階リハ室、歯科） 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について 職員健診の実施項目の変更（一部法定外項目の除外）について
12	平成 31 年 3 月 27 日	感染症罹患状況、労災事故について メンタルヘルスケア（こころの相談利用）について 産業医の巡回（外来・内視鏡室）について 前月の時間外労働（長時間労働者）の状況について

4. 活動要約

- ・事業者側と雇用者側からの委員構成で職場環境の点検と対策について検討した。
- ・感染症罹患状況の把握と休養の指導をした。
- ・前年度に引き続き、冬の路面凍結による転倒事故防止対策として、職員通用口付近に融雪および電気マットを敷き、注意喚起の回覧、掲示を実施した。職員の熱中症発症を受け、状況把握のため熱中症計によるモニタリングを行い、可能な対策を講じるとともに環境改善の方策について検討することとした。

労災事故件数 打撲・捻挫 4 件、針刺し 1 件、熱中症 2 件、その他 3 件 計 10 件

- ・産業医の巡回による職場環境の点検および指摘事項の検討をした。
- ・健康診断で所見のあった職員へのフォローアップをした。

春の受診者数 173 名、指示人数 32 名 (18%)

秋の受診者数 397 名、指示人数 42 名 (11%)

- ・時間外労働（長時間労働者）については、月 80 時間超となるケースはないものの、事務員の時間外労働が多く、時間外削減に努めるとした。
- ・メンタルヘルスケアについて年 1 回の研修会の実施
講演：「ストレスと対処法」／開催：平成 30 年 9 月 10 日～14 日
講師：弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 准教授 古郡規雄 先生、参加者 314 名
- ・ストレスチェックの実施の結果：受検率 98.3%、受験者に占める高ストレス判定者の割合 17.7%

部署代表者委員会

1. 活動目的

本委員会は、当財団が少しでも働きやすい環境となるよう、就業規則等の作成・変更にあたっての意見や要望を職員から聴取・集約した上で、財団との交渉や、財団が必要とする意見交換に応じ、法令で定められた書面による財団との協定の締結・変更及び解約を行うことを目的とする。

2. 構成員

委員長	診療部代表	川村 隆行 (診療放射線技師長)
メンバー	医局代表	佐々木 都子 (内科部長・リハビリテーション部長)
	看護部代表	齋藤 輝之 (看護主任)
		三上 小夜香 (看護主任)
	リハビリテーション部代表	山田 奈津子 (リハ主任/理学療法士)
		齋藤 曜子 (作業療法士)
	事務部代表	佐藤 暢子 (財務経理係主任)

3. 委員会開催記録

回	日付	内 容
1	平成 30 年 5 月 18 日(金)	委員長が職員代表者として適任であるか各部署に確認するための書面を回覧した。
2	平成 30 年 5 月 31 日(木)	5 月 18 日付で回覧した書面を回収・確認した結果、過半数以上の職員から賛同を得られたことを各部署へ文書にて報告した。
3	平成 30 年 6 月 29 日(金)	ワクチン接種料金の賃金控除に関する協定書を財団と締結した。
4	平成 30 年 10 月 4 日(木)	財団より委員会に対して説明会(時間外労働手当の支払い, インフルエンザ予防接種の賃金控除, メンタルヘルスによる休業者のならし, 就業規則の変更)が行われた。
5	平成 30 年 10 月 5 日(金)	時間外労働手当の支払いに関する書面を各部署に回覧した。
6	平成 30 年 10 月 29 日(月)	インフルエンザ予防接種料金の賃金控除に関する協定書を財団と締結した。
7	平成 31 年 1 月 4 日(金)	就業規則等の一部改正について意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。
8	平成 31 年 2 月 1 日(金)	派遣可能期間を延長して労働者派遣の役務の提供を受けることについて意見を文書で提出するよう財団より委員会へ依頼あり。⇒委員会から異議なし。
9	平成 31 年 2 月 7 日(木)	1 月 4 日付での就業規則等の一部改正事項を 2 月 1 日に弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受け、届出した旨を示す書面の写しを各部署に回覧した。

10	平成 31 年 3 月 28 日(木)	平成 31 年度の時間外労働及び休日労働に関する労使協定書を弘前労働基準監督署へ届出したことを財団より報告を受けた。また、定期昇給・賞与支給率についての協定書を財団と締結した。
----	---------------------	--

4. 活動要約

平成 30 年度は就業規則等の規定に反する事象が数件発生した。発生の要因は様々考えられるが、働きやすい環境にすることは改善策の 1 つとしてあげられる。この事を踏まえて職員からの意見や要望を参考にしながら、労働環境の整備(給与や休暇等の充実)を微力ながらも計画・実行することで短期離職者を減らし、人材の確保に繋げていけるように委員会として活動していきたい。

教育研修委員会

1. 活動目的

本委員会は、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける職員の学習を奨励し、①職業人として自己を研鑽する姿勢を身につける、②医療人として患者のために奉仕する心を学ぶ、③プロフェッショナルとして個々の知識、スキルを高めるための支援、及び環境調整をするものである。

2. 構成員

委員長	馬場 佳子 (内科部長)	
副委員長	工藤 留美子 (副看護部長兼感染対策室副室長)	
メンバー	鳥谷部 翔 (薬剤師長)	阿保 文子 (臨床検査技師長)
	川村 隆行 (診療放射線技師長)	鳴海 悦子 (管理栄養士長)
	金崎 真紀子 (看護師長)	工藤 正弘 (看護師長)
	中村 学人 (理学療法士)	久森 名緒子 (作業療法士)
	高橋 友紀子 (言語聴覚士)	宇佐美 夏希 (医療相談員)
	蝦名 佑夏子 (医療相談員)	
	奈良 麻里 (医師事務作業補助係)	佐藤 暢子 (財務経理係主任)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	平成 30 年 4 月 27 日	看護部・リハ部の教育研修計画について
2	平成 30 年 5 月 25 日	承認伺いの新様式の周知について メディカルスタッフ勉強会の報告 リハケア勉強会の予定
3	平成 30 年 6 月 22 日	メディカルスタッフ勉強会のスタッフの時間外手当について リハケア勉強会の中間報告 資格取得および資格更新に関する内規についての確認
4	平成 30 年 7 月 27 日	リハケア勉強会の中間報告 メディカルスタッフ勉強会の報告
5	平成 30 年 8 月 24 日	リハケア勉強会の報告 今後のリハケア勉強会について
6	平成 30 年 9 月 25 日	研修旅費・学術助成の執行状況についての確認
7	平成 30 年 10 月 26 日	職員表彰評価内容と実施について 学術奨励賞について
8	平成 30 年 11 月 16 日	薬剤室の e-ラーニング受講について 脳卒中学会のコメディカル枠について 職員表彰経過報告 学会の抄録の保存フォルダについて

9	平成 30 年 12 月 21 日	来年度の戦略的人材育成費について 資格取得・更新をした職員の退職について 職員表彰の報告と内容の見直しについて
10	平成 31 年 1 月 25 日	来年度の学会研修旅費予算案について 来年度の戦略的人材育成費決定の報告
11	平成 31 年 2 月 15 日	看護部研修会の報告 リハ部研修会の報告 メディカルスタッフ勉強会の報告と来年度へ向けての提案 学術奨励賞の募集について
12	平成 31 年 3 月 22 日	新入職員教育研修案について メディカルスタッフ勉強会の報告 委員会メンバー変更の報告 学術奨励賞募集の経過報告

4. 活動要約

- ・ 出張旅費と学術助成の計画と執行状況の確認をした。
- ・ 黎明郷リハケア勉強会を企画し、無事に実施することができた。
- ・ 看護部・リハ部でそれぞれ勉強会を企画し、年間を通して行った。
- ・ メディカルスタッフ勉強会を企画し、年間を通して行った。
- ・ 学会予演会を企画・開催した。
- ・ 戦略的人材育成費の内容と学会研修旅費の予算を検討し、決定した。
- ・ 職員表彰の評価内容を見直し、検討を行った。

施設運用委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)における施設運用についての意見及び要望について検討し、その適正化を図ることを目的とする。

2. 構成員

委員長	清野 聡	(医局長・内科部長)
メンバー	樋口 三枝子	(看護部長)
	算用子 暁美	(リハビリテーション部技師長代行)
	川村 隆行	(診療放射線技師長)
	工藤 雅令	(事務部長)
	蒔苗 寿治	(施設管理課長)

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 30 年 4 月 4 日	部屋の点検表について 休日のヘリポートについて
2	平成 30 年 5 月 2 日	部屋の点検表について審議検討した。 3 病棟言語聴覚室 1 のドアについて
3	平成 30 年 6 月 13 日	部屋の点検表について審議検討した。 7 月からの委員の構成について
4	平成 30 年 7 月 4 日	部屋の点検表について審議検討した。 MRI 室の空調の清掃について
5	平成 30 年 8 月 1 日	部屋の点検表について審議検討した。 3. 4 病棟病室の壁紙補修について
6	平成 30 年 9 月 5 日	部屋の点検表について審議検討した。 4 階特殊浴室の天上と床の補修について
7	平成 30 年 10 月 3 日	今年度 2 回目の点検表について 4 階特殊浴室の換気窓の補修について
8	平成 30 年 11 月 7 日	部屋の点検表について審議検討した。 東棟休憩室のイスの汚れについて
9	平成 30 年 12 月 5 日	部屋の点検表について審議検討した。 5 病棟リハ室の畳について

10	平成 31 年 1 月 9 日	部屋の点検表について審議検討した。 リハ棟理学療法室のフロアコンセントについて
11	平成 31 年 2 月 6 日	部屋の点検表について審議検討した。 5 病棟リフト浴室の棚のカーテンについて
12	平成 31 年 3 月 6 日	トイレのごみ箱の大きさについて トイレの手摺りのペーパーホルダーについて 東棟病室の吊り棚の下にハンガーを掛ける棒について

4. 活動要約

- ・各部屋の責任者を選任し年 2 回の点検および改善・対策をした。
- ・休日のヘリポート運用の周知を行った。
- ・MR I 室の空調の清掃を行った。
- ・3、4 病棟病室の壁紙の剥がれ、汚れ等の補修を行った。
- ・4 階特殊浴室の天井の塗装と脱衣室の床の張替、換気窓の開閉補修を行った。
- ・東棟休憩室のイスの汚れ、シミの洗浄を行った。
- ・5 病棟リハ室の畳が劣化している為、カーペットを敷いた。
- ・5 病棟リフト浴脱衣室の棚にカーテンを設置した。

広報委員会

1. 活動目的

弘前脳卒中・リハビリテーションセンター(以下「センター」という。)の医療情報の広報を的確に推進するため、センターに広報委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2. 構成員

委員長 目時 典文 (内科部長)
メンバー 樋口 三枝子 (看護部長)
三浦 順子 (言語聴覚室副室長)
鳥谷部 翔 (薬剤師長)
立林 修 (庶務課長)

3. 活動記録

回	開催日	内 容
1	平成 30 年 5 月 28 日	ホームページについて、更新内容、部署別紹介コンテンツ制作の進捗状況について報告。 年報についての進捗状況の報告。 今年度の市民公開講座について、4月に実行委員会を立ち上げ、準備中との報告があった。開催予定日は9月30日(日)
2	平成 30 年 7 月 23 日	7月より委員長交代 ホームページについて、リクルート情報掲載、ワーキンググループ再編についての方針について検討。 年報作成の進め方についての検討。
3	平成 31 年 10 月 1 日	ホームページについて、ワーキンググループ再編の方針決定、部署紹介ページの見直しについての報告。 年報についての進捗状況の報告。 脳卒中市民公開講座の開催結果報告。
4	平成 31 年 1 月 28 日	ホームページ：臨床研究の新規ページ追加について報告。 年報についての進捗状況の報告。 脳卒中市民公開講座の次年度開催について。 開催予定日は5月26日(日)
6	平成 31 年 3 月 27 日	ホームページの部署紹介ページ更新の進捗について。 年報第5号の公開について。

4. 活動要約

- ・ ホームページの充実、年報の作成、脳卒中市民公開講座の継続開催を軸に審議検討した。
- ・ ホームページは、各コンテンツの定期的更新のほか、部署別コンテンツの充実を図った。
- ・ 年報第5号(H29年度)が完成し、ホームページ上で公開。
- ・ 脳卒中市民公開講座2018を開催した。

平成 30 年 9 月 30 日(日) 弘前市民文化交流館大ホール(ヒロロ4F) 参加者 59 名

患者サービス委員会

1. 活動目的

本委員会は、各部門が連携協調を図り、業務の円滑な処理および効率性を確保することにより、病院を利用する患者および患者の家族等（以下患者等）へのサービス向上に資することを目的とする。

2. 構成員

医局・ 中央診療室	医局 医療安全推進室 診療放射線室 栄養室	鎌田 孝篤（副院長） 松本 茂男（副院長） 山田 まり子（医療安全推進室副室長） 関 晃次郎（診療放射線技師） 鳴海 悦子（管理栄養士長）
看護部	1 病棟 2 病棟 3 病棟 4 病棟 5 病棟 外来	村上 朋子（看護主任） 工藤 晃（看護主任） 大湯 由香（看護主任代行） 工藤 正弘（看護師長） 工藤 くみ（看護主任） 小野 るり子（看護主任）
リハ部	理学療法室 作業療法室 言語聴覚室 医療相談室	中嶋 秋花（理学療法士） 住吉 佳奈子（リハ士長／作業療法士） 福山 美佳（リハ主任／言語聴覚士） 長尾 さくら（医療相談員）
事務部	医事課 財務経理課	葛西 志保（医師事務作業補助係） 澤田 栞奈（財務経理係）

3. 活動要約

患者サービス委員会：毎月第3木曜日 15：30～16：00

活動内容

- 職員の患者等への対応サービスの向上に関すること。
- 患者等の院内活動にかかるサービス向上に関すること。
- 患者等からの苦情・意見の収集および対応に関すること。
- ボランティアの受け入れおよび活動内容に関すること。
- その他の医療サービスに関すること。

4. 主なイベント

開催日	内容
平成 30 年 5 月 22 日	<p>接遇研修 ※教育研修委員会主催 「施設のホスピタリティ～医療者として欠かせない接遇～ (e-ラーニングビデオ研修)」 42 名参加</p> <p>(※教育研修委員会がメディカルスタッフ勉強会として開催した接遇研修が、参加者も多く内容が充実したものであった為、H30 年度は当委員会で改めて接遇研修を開催しないこととした。)</p>
平成 30 年 6 月中旬～7 月 7 日	七夕飾りの設置・片づけ
平成 30 年 6 月 22 日	春の清掃活動(ゴミ拾い) 45 名参加
平成 30 年 9 月 21 日	秋の清掃活動(ゴミ拾い) 16 名参加
平成 30 年 11 月中旬～12 月 25 日	クリスマスツリー飾りの設置・片づけ

5. 退院時患者アンケート・患者、家族からのご意見

アンケート年間平均回収率：28.2%

特に目立ったご要望

- ・食事内容（味付け、メニュー、量）に関する不満
- ・看護師に対する不満（接遇、説明不足、連携不足、対応の遅さ等）
- ・医師に対する不満（接遇、説明不足等）
- ・相談員に対する不満（接遇、説明不足等）
- ・環境・設備に対する不満（室温、室内の明るさ、トイレ環境、wi-fi の設置、コインランドリーの設置等）
- ・その他：医療費等の請求に関する不満、病衣・寝具交換に関する不満、患者向け講習会に対する不満

6. 平成 30 年度まとめ

- ・計画した行事は予定通り実施できた。
- ・主に患者・家族からのご要望、ご意見に対し前向きに検討を進めてきた。
- ・入院患者が最も関心の高い「食事」に関する質の向上（味付け・メニュー）を目指して努力する。
- ・職員の接遇力の向上と連携・協調を深められるための研修会企画をしていく。
- ・環境・設備等に関して、施設管理部門と連携し解決を図る。

レクリエーション委員会

1. 活動目的

本会は、一般財団法人黎明郷 職員間の交流を通じ、労働力の確保・定着・勤労意欲・能率の向上などの効果をもたらすことを目的とし、以下の活動をする。

- ・財団新入職員歓迎会に関する事。 (開催日：原則 4 月第 3 金曜日)
- ・財団忘年会に関する事。 (開催日：原則 12 月第 2 金曜日)
- ・ボウリング大会に関する事。
- ・その他、レクリエーション活動に関する事。

2. 構成員

委員長	事務部	奈良 富士子 (事務部次長)
メンバー	医 局	清野 聡 (医局長)
	薬剤室	清藤 一輝 (薬剤師)
	診療放射線室	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	外 来	工藤 江里香 (看護師)
	1 病棟	野呂 拓夢 (看護師)
	2 病棟	石黒 智子 (看護師)
	3 病棟	荒谷 光太郎 (理学療法士)
	4 病棟	西澤 清貴 (作業療法士)
	5 病棟	三上 知彦 (看護師)
	事務部	桑田 武人 (財務経理係長)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成 30 年 4 月 9 日	レク企画 (企画立案)、新入職員歓迎観桜会 (準備)
2	平成 30 年 5 月 14 日	レク企画 (企画立案)、新入職員歓迎観桜会 (終了報告)
3	平成 30 年 6 月 11 日	納涼会 (準備)、ボウリング大会 (準備)
4	平成 30 年 7 月 9 日	納涼会 (準備)、ボウリング大会 (準備)
5	平成 30 年 8 月 6 日	納涼会 (終了報告)、ボウリング大会 (準備)
6	平成 30 年 9 月 10 日	ボウリング大会 (終了報告)、納涼会 (アンケート)、忘年会 (準備)
7	平成 30 年 10 月 15 日	納涼会アンケート (集計)、忘年会 (準備)
8	平成 30 年 11 月 12 日	忘年会 (準備)
9	平成 30 年 12 月 10 日	忘年会 (準備)、H29 年度委員会年報 (報告)
10	平成 31 年 1 月 21 日	忘年会 (終了報告)、来年度の委員編成
11	平成 31 年 2 月 18 日	新入職員歓迎観桜会 (準備)、来年度の委員体制
12	平成 31 年 3 月 11 日	来年度の委員交代、新入職員歓迎観桜会 (準備)

4. 活動要約

内 容	開催日	場 所	参加人数
新入職員歓迎観桜会	平成30年4月20日	ホテルニューキャッスル	269名
納涼会	平成30年7月27日	ごちそうプラザ（土手町）	113名
ボウリング大会	平成30年9月7日	アサヒボウル（土手町）	76名
ボウリング大会懇親会	平成30年9月7日	わいん食堂（百石町）	71名
忘年会	平成30年12月14日	アートホテル弘前シティ	291名

※ 納涼会について

前年度時にレク企画アンケートを行い、その結果を反映させるため、納涼会を今年度開催することとなった。

その後、納涼会のアンケートを行い、今回の満足度や次回の参加希望を踏まえて、来年度も開催する方向で調整をすることとなった。

NST(Nutrition Support Team)

1. 活動目的

本チームは、一般法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける、入院患者の栄養の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

リーダー 内沢 隆充 (副院長)
 メンバー 佐々木 都子 (内科部長)
 鳥谷部 翔 (薬剤師長) 山内めぐみ (臨床検査技師) 木村 俊太 (臨床検査技師)
 荒谷 真貴 (専任看護師) 今井 真子 (専任看護師) 高阪 理恵 (専任看護師)
 横濱 岳 (看護主任) 福士 真美 (看護師) 阿保 智加 (看護師)
 齋藤 信一 (リハ士長) 相馬 千尋 (リハ主任) 宮川 具子 (言語聴覚士)
 成田 笑美 (医療相談員) 佐々木 哲裕 (医事係主任) 角田 七海 (医事係)
 鳴海 悦子 (管理栄養士長) 藤田 佳子 (主任管理栄養士) 船水 亜巳 (管理栄養士)
 大川 みこと (管理栄養士)

3. 活動記録

1病棟	毎週月曜日	13:00～	8月から毎週火曜日	16:00～
2病棟	毎週金曜日	13:00～	8月から毎週木曜日	16:00～
3病棟	月1回第2木曜日	16:00～	8月から月1回第2金曜日	16:00～
4病棟	月1回第2木曜日	16:00～	8月から月1回第2金曜日	16:00～
5病棟	月1回第4木曜日	16:00～	8月から月1回第4木曜日	16:00～

▼NST評価件数

	1病棟	2病棟	3病棟	4病棟	5病棟
4月	23	32	9	4	10
5月	17	27	6	6	3
6月	24	36	3	3	13
7月	24	19	6	6	17
8月	17	28	2	2	10
9月	17	19	7	7	10
10月	26	14	5	5	6
11月	21	21	7	7	6
12月	16	21	9	9	12
1月	21	20	3	3	9
2月	21	17	5	5	7
3月	12	16	6	6	7
合計	239件	270件	94件	63件	110件

4. 活動要約

- N S Tによる加算算定は実施していないが、食事不振、栄養不良者、経鼻経管栄養対象者に関しての評価は継続して実施した。
- 一般病棟でのN S T対象者については、回復期病棟への転棟後も評価しているが、一般病棟では問題なかったが、回復期病棟転棟後に食欲不振になった患者の抽出なども継続して行われた。
- N S T勉強会
「消化態栄養剤」11月27日

ICT(Infection Control Team)

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける感染管理を担当する専門職によるグループで、院内ラウンドなどの活動を通して院内感染防止を目的として活動するものである。

2. 構成員

リーダー	清野 聡 (医局長)	サブリーダー	萩井 護士 (内科部長)
メンバー	工藤 留美子 (看護師長)	毛利 暢子 (感染対策室副室長代行)	三上 千鶴 (看護師)
	阿保 文子 (臨床検査技師長)	倉内 寿孝 (主任薬剤師)	花田 和大 (薬剤師)
リンクスタッフ	工藤 晃 (看護主任)	寺地 恵子 (看護師)	岡崎 聡子 (看護師)
	齋藤 恵 (看護師)	下山 小百合 (看護師)	船水 正美 (看護師)
	鈴木 麻里 (看護師)	宮野 麻莉 (看護師)	西澤 怜奈 (看護師)
	黒瀧 麻実 (看護師)	赤石 富士子 (看護師)	川村 隆行 (診療放射線技師長)
	船水 亜巳 (管理栄養士)	盛 亨子 (言語聴覚室長)	三浦 康彦 (理学療法室副室長)
	伊藤 佳織 (医事係主任)	須藤 舞 (医事係)	

3. ICT会議開催記録

回	開催日	内容
1	平成 30 年 4 月 3 日	平成 29 ICT活動の振り返り 平成 30 年度 ICT活動計画 平成 30 年度 ICTリンクスタッフ活動について 検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
2	平成 30 年 4 月 10 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
3	平成 30 年 4 月 17 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
4	平成 30 年 4 月 24 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
5	平成 30 年 5 月 1 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
6	平成 30 年 5 月 8 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

7	平成 30 年 5 月 15 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
8	平成 30 年 5 月 23 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 平成 30 年度小児ウイルスプログラム
9	平成 30 年 5 月 29 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
10	平成 30 年 6 月 5 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
11	平成 30 年 6 月 12 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
12	平成 30 年 6 月 19 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
13	平成 30 年 6 月 26 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
14	平成 30 年 7 月 3 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
15	平成 30 年 7 月 10 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
16	平成 30 年 7 月 17 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
17	平成 30 年 7 月 24 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
18	平成 30 年 7 月 31 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
19	平成 30 年 8 月 7 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

20	平成 30 年 8 月 14 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
21	平成 30 年 8 月 21 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
22	平成 30 年 8 月 28 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
23	平成 30 年 9 月 4 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
24	平成 30 年 9 月 11 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 ディスポーザブル吸引器トライアル開始（2 部署）
25	平成 30 年 9 月 18 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
26	平成 30 年 9 月 25 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 ディスポーザブル吸引器トライアル評価
27	平成 30 年 10 月 2 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
28	平成 30 年 10 月 9 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 ディスポーザブル吸引器への切り替え（第一弾）
29	平成 30 年 10 月 16 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
30	平成 30 年 10 月 23 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 医療廃棄物分別トライアル開始（1 部署）
31	平成 30 年 10 月 30 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 マキシマルバリアアプリケーション実施状況と指導検討

32	平成 30 年 11 月 6 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 医療廃棄物分別方法変更（全部署で実施）
33	平成 30 年 11 月 13 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 ディスプレイ吸引器への切り替え（第 2 段）
34	平成 30 年 11 月 20 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
35	平成 30 年 11 月 27 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
36	平成 30 年 12 月 4 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 医療廃棄物分別方法後の評価
37	平成 30 年 12 月 11 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
38	平成 30 年 12 月 18 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 インフルエンザ流行時における感染対応について検討
39	平成 30 年 12 月 25 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
40	平成 31 年 1 月 8 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
41	平成 31 年 1 月 15 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
42	平成 31 年 1 月 22 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
43	平成 31 年 1 月 29 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価

44	平成 31 年 2 月 5 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 万能車の使用方法について検討
45	平成 31 年 2 月 12 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
46	平成 31 年 2 月 19 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
47	平成 31 年 2 月 26 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
48	平成 31 年 3 月 5 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
49	平成 31 年 3 月 12 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
50	平成 31 年 3 月 19 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価
51	平成 31 年 3 月 26 日	検出菌状況報告・検討 特定抗菌薬使用状況の報告・検討 院内巡視結果報告・評価 平成 30 年度院内感染対策に関する評価 平成 31 年度院内感染対策に関する課題
臨時 1	平成 31 年 1 月 23 日	インフルエンザ予防投与について
臨時 2	平成 31 年 3 月 4 日	インフルエンザ予防投与について
臨時 3	平成 31 年 3 月 5 日	VRE について
臨時 4	平成 31 年 3 月 5 日	VRE の監視培養について

4. 活動要約

- ・院内巡視(ICTラウンド)を実施・評価し感染対策委員会にて提言
1年を通して、評価項目の改善点なども多く抽出された。
ICTリンクスタッフのレベルが向上してきている。
- ・院内感染対策マニュアルの見直し
平成30年度の全面改定を行い、マニュアルの充実を図った。
追加する項目についての検討を行い、継続した見直しを行う。

- ・手指消毒について

手指消毒薬個人携帯開始に伴い、使用量確認も実施。

個人・病棟における使用量の変化を可視化する事で感染予防につながっている。

- ・ディスポ吸引器導入

洗浄などによる曝露リスク軽減と業務改善を実施。

手技手順の見直しを行い、感染管理を実施した事で技術向上へのアプローチを実施。

- ・医療廃棄物分別変更

財団職員一丸となり、医療廃棄物に取り組んだことで不適切な分別が減少し、医療廃棄物処理費の削減につながった。

血管造影室など、鋭利物が多い部署での処理方法について継続した検討が必要。

- ・マキシマルバリアプリコーション

標準予防策の1つ、マキシマルバリアプリコーションについての指導と手技の統一を図ることで感染対策を行った。指導前と比較し手技不良はないが、実施できていない職員がいるため、感染管理を行う上での研修や指導を継続していく。

DST(Diabetic Support Team)

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける糖尿病患者の合併症の発症・進行が抑制されるよう集学的な治療を行い、症状や生活の質が改善されるように指導や支援を行うことを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

指導医	医局	佐々木 都子 (内科部長)
GM	薬剤室	鳥谷部 翔 (薬剤師長)
リーダー	看護部	佐藤 志乃 (看護主任)
メンバー	薬剤室	高瀬 公子 (薬剤師)
	栄養室	鳴海 悦子 (管理栄養士長)
		船水 亜巳 (管理栄養士)
		大川 みこと (管理栄養士)
	看護部	三上 小夜香 (看護主任)
		工藤 くみ (看護主任)
		伊藤 純子 (看護主任)
		澤田 由香 (看護主任)
		今井 真子 (看護師)
		工藤 梓 (看護師)
		西谷 鮎子 (看護師)
		板垣 充子 (看護師)
		田川 早苗 (看護師)
		小山内 瞳 (歯科衛生士)
	医学研究室	外崎 春香 (医療クラーク)
事務局	事務局	佐々木 哲裕 (医事係主任)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	平成30年4月9日	看護部を対象としたアンケートについて インスリン製剤使用時の注意喚起 看護部を対象としたインスリン勉強会について
2	平成30年5月14日	看護部を対象としたインスリン勉強会について 糖尿病教室に関するアンケートについて
3	平成30年6月11日	看護部を対象としたインスリン勉強会について 看護部を対象としたアンケートについて 学会参加報告

4	平成 30 年 7 月 9 日	看護部を対象としたインスリン勉強会について 看護部を対象としたアンケートについて 糖尿病教室開催日変更について
5	平成 30 年 8 月 13 日	看護部を対象としたインスリン勉強会について インスリン新規格発売のお知らせ（情報提供）
6	平成 30 年 9 月 10 日	糖尿病教室について（患者アンケートより） 看護部を対象としたインスリン勉強会について
7	平成 30 年 10 月 22 日	D S T 勉強会について 看護部を対象としたインスリン勉強会について 学会参加報告
8	平成 30 年 11 月 12 日	糖尿病教室について（アンケート見直し） D S T 勉強会について 看護部を対象としたインスリン勉強会について
9	平成 30 年 12 月 10 日	D S T 勉強会について 看護部を対象としたインスリン勉強会について 委員変更について
10	平成 31 年 1 月 21 日	メディカルスタッフ勉強会について
11	平成 31 年 2 月 18 日	糖尿病教室について（来年度日程）
12	平成 31 年 3 月 11 日	研修会参加報告

4. 活動要約

- ・糖尿病教室の実施（週 1 回）、それに伴う運営指導方法の検討。
- ・糖尿病教室へ参加された患者を対象とした院内アンケートの実施。
- ・院内スタッフ勉強会の実施。

脳ドックワーキンググループ

1. 活動目的

「脳ドック」を希望する対象者のニーズに応える。もって、根治の難しい神経疾患の発生を予防する。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

リーダー	内沢 隆充 (副院長・脳神経外科部長)	
メンバー	萩井 譲士 (内科部長)	目時 典文 (内科部長)
	千葉 順子 (看護師長)	小野 るり子 (看護主任)
	川村 隆行 (診療放射線技師長)	阿保 文子 (臨床検査技師長)
	齋藤 理恵 (医事課長代行)	佐々木 哲裕 (医事係主任)
	今 基 (企画運営課長)	

3. 委員会開催記録

回	開催日	内容
1	平成30年8月31日	青森県市町村職員共済組合との「脳検診」委託契約について 弘前市国保脳ドック委託契約について 公立学校共済組合との「脳検診」実施進捗状況 田舎館村国保脳ドック委託契約検討 平川市国保脳ドック委託契約検討
2	平成31年3月11日 (紙上会議)	田舎館村国保脳ドック委託契約検討結果報告 平川市国保脳ドック委託契約検討結果報告 来年度の構成委員について

4. 活動要約

- ・脳卒中の早期発見と予防に貢献すべく、平成30年度も引き続き事業を継続
- ・今年度も公立学校共済組合と「脳検診」の委託契約を更新 (定員100名程度)
- ・日本予防医学協会と「脳ドック」の委託契約を更新 (自動更新)
- ・青森県市町村職員共済組合との「脳検診」について委託契約締結 (2019年4月1日～)
- ・「弘前市国保脳ドック」として弘前市及び弘前市医師会と委託契約締結 (平成30年10月1日～)
- ・「田舎館村国保脳ドック」は脳検査と特定健診も同時に実施し、かつ、請求事務も自院で国保連合会行う形式のため、請求システムを持ち合わせていないため、契約に至らなかった。
- ・平川市国保脳ドックの「脳検診」はMR I撮影の他、CT撮影も同時に行うことが条件であり、他医療機関との設定金額に隔たりがあり、契約に至らなかった。
- ・平成30年度の実績について
 - 実施件数：一般22件 公立学校共済組合：86件 弘前市国保：10件 計118件
 - 未実施件数：8件 (理由)
 - ・体内金属有でのお断り (5人)
 - ・脳卒中症状があり、急きよ受診に変更 (1人)
 - ・本人都合でのキャンセル (2人)

心臓リハビリテーション ワーキンググループ

1. 活動目的

本ワーキンググループは、心大血管疾患リハビリテーションを適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とする。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

高橋 広希 (内科部長 ・心臓リハビリテーション指導士)
 小野 公久 (作業療法士・心臓リハビリテーション指導士)
 小山 裕美 (理学療法士・心臓リハビリテーション指導士)
 佐藤 勇季 (理学療法士・心臓リハビリテーション指導士)
 鳥谷部 翔 (薬剤師長)
 横濱 岳 (看護主任)
 阿保 文子 (臨床検査技師長)
 鳴海 悦子 (管理栄養士長)
 今 基 (企画運営課長)

3. ワーキング開催記録

【心臓リハビリテーションワーキング】

毎月第2金曜日 15:00～16:00

回	開催日	内容
1	平成30年4月13日	外来リハビリ実施にあたっての運用項目検討 必要備品の追加購入検討
2	平成30年5月11日	外来リハビリでのCPX実施の運用検討 対象患者増加時の対応について
3	平成30年6月8日	リハビリテーション実施計画書の運用検討
4	平成30年7月6日	短期入院でのCPX運用方法の検討 外来リハビリでのCPX実施の運用検討
5	平成30年8月10日	対象患者数増加とスタッフの対応方法検討 病院ホームページ掲載の検討
6	平成30年9月14日	短期入院でのCPX運用方法の検討 外来リハビリ実施の振り返り
7	平成30年10月12日	CPRの訓練 リハ処方のリセット検討 体組成計の運用方法検討
8	平成30年11月9日	CPX用消耗品の発注、管理の検討 急変時対応シュミレーションの検討
9	平成30年12月14日	急変時対応シュミレーションの結果 必要備品の購入について

10	平成 31 年 1 月 11 日	リハ処方に関する質問や意見のルール作りについて 緊急時コードの作成について
11	平成 31 年 2 月 8 日	患者教育、短期入院での CPX、栄養服薬運動指導等について 急変時対応シュミレーション実施について
12	平成 31 年 3 月 8 日	患者教育、短期入院での CPX、栄養服薬運動指導等について 急変時対応シュミレーション実施について CPXフォローアップセミナーについて

4. 活動要約

- ・心臓リハビリテーションを円滑に行うために、機器の選択やプロトコールの決定を多部門で行っている。
- ・弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座 助教 西崎史恵 医師（心臓リハビリテーション指導士）に非常勤として来ていただき、患者訓練指導に立ち会って指導頂いている。

口腔ケアワーキンググループ

1. 活動目的

本チームは、一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンターにおける入院患者の口腔衛生の向上と維持のために活動するものである。

2. 構成員 ※平成31年3月末現在

リーダー 盛 亨子 (言語聴覚室長)
 サブリーダー 花岡 葉子 (リハ士長) 小山内 瞳 (歯科衛生士)
 メンバー 小堀 文美子 (歯科衛生士)
 清野 真紀 (看護師) 小田桐 真優美 (看護師) 村上 直美 (看護師)
 山形 由紀子 (看護師) 藤田 真紀子 (看護師) 成田 雅子 (看護師)

3. 委員会開催記録

回	開催日	内 容
1	平成30年4月4日	本年度活動計画の検討
2	平成30年5月2日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更について 口腔アセスメントシートのペーパーレス化について
3	平成30年6月6日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更後の経過報告 口腔アセスメントシートのペーパーレス化について
4	平成30年7月4日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更後の経過報告 口腔アセスメントシートの運用・更新について
5	平成30年8月1日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更後の経過報告 口腔アセスメントシートの運用・更新について 口腔ケア用品の使用について
6	平成30年9月5日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更後の経過報告 口腔ケア用品の使用についての報告と感想
7	平成30年10月3日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更後の経過報告 各病棟での口腔ケアの現状報告 口腔ケア用品の使用についての報告と感想
8	平成30年11月7日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更後の経過報告 各病棟での口腔ケアの現状報告と解決策の提案
9	平成30年12月5日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更後の経過報告 各病棟での口腔ケアの現状報告と解決策の提案
10	平成31年1月9日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更後の経過報告 各病棟での口腔ケアの現状報告と解決策の提案 次年度の活動検討
11	平成31年2月6日	歯科衛生士口腔ケアラウンドの運用変更後の経過報告 各病棟での口腔ケアの現状報告と解決策の提案 次年度の活動検討
12	平成31年3月6日	次年度の活動検討

4. 活動要約

- 口腔アセスメントシートをペーパーレス化し、業務の簡略化を図った。
- 歯科衛生士の口腔ケアラウンドの運用を見直し、急性期から口腔内環境改善に取り組めるように環境調整を図った。
- 看護師主体の口腔ケアの定着化など、次年度の活動への問題提起ができた。

令和2年3月31日発行

【編集】弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 広報委員会

委員長	目時典文 (内科部長)
委員	樋口三枝子 (看護部長)
	算用子 暁美 (リハビリテーション部技師長)
	鳥谷部 翔 (薬剤師長)
	立林 修 (庶務課長)

